ICOM

取扱説明書

COMMUNICATIONS RECEIVER

IC-R3

Icom Inc.

はじめに

このたびは、IC-R3をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

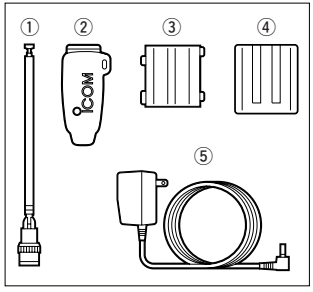
IC-R3は、2インチTFTカラー液晶モニターを搭載し、各種映像(TV放送、各種映像トランスミッターなど)、バンドスコープ機能、サーチ(方向探知)機能による各種映像/電波を受信することができます。

受信範囲は0.5～2400MHzの広帯域をカバーする、超小型・軽量の受信機です。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

お読みになったあとも、いつでも読めるように大切に保管してください。

付属品



①アンテナ ……1
②ベルトクリップ ……1
③乾電池用スペーサー ……1
④バッテリーパック ……1
(BP-206)
⑤普及型バッテリー
チャージャー(BC-153) …1
- 取扱説明書
- 保証書
- 愛用者カード

目　次

1.安全上のご注意(必ずお読みください) ——— 1
■その他取り扱い上のご注意 …… 5
■液晶ディスプレイについてのご注意 …… 5
■お願いとおことわり …… 6
2.ご使用の前に ——— 7
2-1 バッテリーパックのセット…… 7
2-2 乾電池のセット…… 8
2-3 外部電源の接続…… 8
2-4 付属品の取り付けかた…… 9
3.各部の名称と機能 ——— 10
3-1 各部の名称 …… 10
3-2 キーの操作と機能 …… 11
3-3 ディスプレイ …… 13
4.基本操作のしかた ——— 15
4-1 電源の“ON/OFF”と音量の調整 …… 15
4-2 カラー液晶の設定 …… 17
4-3 運用モード(VFO/メモリー)の切り替えかた…… 20
4-4 バンド/受信モード(電波型式)の切り替えかた …… 21
4-5 周波数の設定とTSの切り替えかた…… 22
4-6 スケルチの設定と受信モニターのしかた …… 23
4-7 受信のしかた …… 24
■ アッテネーターの使いかた …… 24

目　次

5.メモリーの使いかた ―― 25
5-1 メモリーモードについて …… 25
5-2 M-CH(メモリーチャンネル)の呼び出しかた …… 26
5-3 メモリー(書き込み)のしかた …… 27
■ 書き込み後のオートインクリメントについて …… 27
5-4 M-CHの内容を他のM-CH(VFO)に複写するには … 28
5-5 メモリーネームの使いかた …… 29
5-6 メモリークリア(消去)のしかた …… 31
6.スキャンのしかた ―― 32
6-1 スキャンについて …… 32
6-2 スキャンの基本的な操作について …… 33
6-3 プログラムスキャン …… 34
〔1〕スキャン範囲の書き込みかた …… 34
〔2〕プログラムスキャンのしかた …… 36
6-4 バンドスキャン/フルスキャンのしかた…… 37
6-5 VFO(周波数)スキャンのスキップ指定のしかた …… 38
6-6 メモリー〔バンク/フル〕スキャンのしかた …… 39
6-7 メモリースキャンのスキップ指定のしかた …… 40
6-8 プライオリティスキャンのしかた …… 41
6-9 トーンスキャンのしかた …… 44
7.セットモードの設定方法 ―― 45
7-1 セットモードの項目について …… 45
7-2 セットモードの設定 …… 46
7-3 設定項目の詳細について …… 47
8.カラー液晶による諸機能の使いかた ―― 52
8-1 テレビ(TV)放送を受信する …… 52
8-2 その他の映像電波(AM-TV/FM-TV)を受信する …… 54
8-3 サーチ(方向探知)機能の使いかた …… 56
8-4 バンドスコープ機能の使いかた …… 57
9. 各種の交信を受信するために ―― 59
9-1 トーンスケルチ通信を受信する …… 59
9-2 デュプレックス通信を受信する …… 61
10. その他の便利な機能 ―― 64
1.キーロック機能について …… 64
2.ビープ音(操作音)について …… 64
3.SUB液晶のバックライト機能について …… 64
4.ダイアルスピード機能について …… 64
5.オートパワーオフ機能について …… 65
6.パワーセーブ機能について …… 65
7.電池残量表示機能について …… 65
8.映像/音声出力について…… 65
11. リセット操作のしかた ―― 66
12. 別売品一覧表 ―― 67
12-1.別売品一覧表 …… 67
12-2.充電のしかた …… 67
13. 故障かな？と思ったら ―― 71
■故障のときは ―― 72
14. 定　格 ―― 73
操作の早見表 ―― 75

1 安全上のご注意

安全にお使いいただくために、必ずお読みください。

- ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- お読みになったあとは、大切に保管してください。

■受信機本体について

⚠警告 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- **万一、煙がでている、変なにおいや音がするなどの異常状態のときは、そのまま使用しないでください。**
  火災、感電、故障の原因になります。
  すぐに電源を切り、お買い上げの販売店、または弊社各営業所サービス係に連絡してください。
- **製品の分解や改造は、絶対にしないでください。**
  火災、感電、故障の原因になります。
- **機器内部に線材、金属物、異物を入れないでください。**
  火災、感電、故障の原因になります。
- **大きな音量で、ヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。**
  大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。
- **引火性ガスの発生する場所では、使用しないでください。**
  火災、爆発の原因になります。

⚠注意 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

- **直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。**
  火災、変形、変色、故障の原因になることがあります。
- **製品を落としたり、強い衝撃を与えないでください。**
  落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。
- **製品を落したり、強い衝撃を与えないでください。**
  けが、故障の原因になることがあります。
- **指定以外の別売品は、接続しないでください。**
  発熱、故障の原因になります。
- **清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。**
  ケースが変質したり、塗料がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。
- **水につけないでください。**
  水につけると、感電、故障の原因になります。
- **運転中は画面を直視(画像を見続ける行為)しないでください。**(道路交通法　第71条　第5号の5)
  交通事故の原因となります。

■リチウムイオンバッテリーパックについて

⚠危険 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が死亡または重傷を負う危険が差し迫っていることが想定される内容」を示しています。

- **専用充電器(☞P68、69)以外で充電しないでください。**
  電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
- **バッテリーパックを他の機器に使用しないでください。**
  電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
- **バッテリーパックの端子間をショートしないでください。**
  ネックレスなどの金属類と一緒に持ち運んだり、放置しないでください。
  電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
- **バッテリーパックは下記のことを必ず守らないと、電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。**
  ○火の中に投入したり、加熱しない
  ○ハンダ付けしない
  ○プラス⊕とマイナス⊖を針金などの金属類で接続しない
- **電池の液が目に入ったときは、こすらないでください。**
  失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。

⚠警告 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- **分解、改造しないでください。**
  電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
- **指定時間を超えても充電を完了しないときは、充電をやめてください。**
  電池の発熱、液もれの原因になります。
- **電池の液が皮膚や衣服に付着したときは、放置しないでください。**
  皮膚に障害を与えるおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

⚠注意 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

- **充電またはバッテリーパックを受信機本体に装着する前に必ずこの取扱説明書をよく読んでください。**
- **0℃以下または35℃以上では充電しないでください。**
  周囲温度が0℃以下または35℃以上になる場所では、充電されないことがあります。

■バッテリーパックについて(つづき)

- **寒い戸外や冷えたまま充電しないでください。**
  電池の液もれ、性能や寿命を低下させる原因になることがあります。
- **高温の場所で使用、放置しないでください。**
  電池の液もれ、性能や寿命を低下させる原因になることがあります。
- **電池を水や海水につけたり、ぬらさないでください。**
  電池の発熱、サビの原因になることがあります。
- **バッテリーパックを使用の際に異常と思われたときは、使用しないでお買い上げの販売店、または弊社各営業所サービス係に連絡してください。**
  そのまま使用すると、電池の破裂、発熱、液もれ、故障の原因になります。
- **強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。**
  電池の破裂、発熱、液もれの原因になることがあります。
- **受信機を使用しないときは、必ず電源を切ってください。**
  液もれの原因になることがあります。
- **清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。**
  ケースが変質したり、塗料がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。
- **受信機を長期間(約1年)使用しない場合はバッテリーパックを取りはずし、−20〜+20℃で湿気の少ない場所に保管してください。**
  3ヶ月間ほど使用しない場合は、−20〜+45℃で湿気の少ない場所に保管してください。
  電池の発熱、サビの原因になることがあります。

■充電器(BC-135)について

⚠危険 **下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。**

- **リチウムイオンバッテリーパック(BP-206)専用の充電器です。**
  指定以外の充電には使用しないでください。
  電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
- **バッテリーパックのプラス⊕とマイナス⊖の極性をまちがえないように十分注意してください。**
  電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
- **必ず表示された電源を使用してください。**
  他の電源で使用すると、火災、発熱、感電、故障の原因になります。
- **この製品を分解、改造しないでください。**

⚠警告 **下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。**

- **充電器に水を入れたり、ぬらさないでください。**
  また、水にぬれたときは、使用しないでください。
  火災、発熱、感電、故障の原因になります。
- **電源コードや接続ケーブルの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。**
  傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

■充電器(BC-135)について(つづき)

⚠警告 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- **電源コードや接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。**
  傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。
- **充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。**
  火災、発熱、感電、故障の原因になります。
- **赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。**
  感電、けがの原因になります。
- **ぬれた手で電源プラグや機器に絶対触れないでください。**
  感電の原因になります。
- **万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。**
  そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。すぐにACコンセントからACアダプターを抜き、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社各営業所サービス係に連絡してください。
- **電源コードや接続ケーブルが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。**
  火災、感電、故障の原因になりますので、お買い上げの販売店、または弊社各営業所サービス係に連絡してください。

⚠注意 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

- **充電またはバッテリーパックを受信機本体に装着する前に必ずこの取扱説明書をよく読んでください。**
- **0℃以下または35℃以上では充電しないでください。**
  周囲温度が0℃以下または35℃以上になる場所では、充電されないことがあります。
- **湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。**
  火災、発熱、感電、故障の原因になることがあります。
- **直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。**
  充電器の火災、故障、誤動作、変形、変色、または電池の破裂、発熱、液もれの原因になることがあります。
- **ACアダプターを抜き差しするときは、電源コードを引っ張らないでください。**
  火災、感電、故障の原因になることがありますので、電源プラグを持って抜いてください。
- **充電後や充電しないときは、ACコンセントからACアダプターを抜いてください。**
  火災、発熱の原因になることがあります。
- **清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。**
  ケースが変質したり、塗料がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

その他取り扱い上のご注意

- 付属のアンテナは、本機を手で持ったときに特性がよくなるように設計しています。
- 受信バンドや受信状況によっては、外部アンテナが効果的です。外部アンテナを使用するときは、テレビなどのアンテナや、電灯線から離して設置してください。
- 本機をほうり投げたり、アンテナを持って本機を持ち運ばないでください。
- バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、2ヵ月以上使用しなかったときは、必ず充電してください。
- バッテリーパックを極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。
  結露した場合は、水分をふき取ってからご使用ください。
- バッテリーパックを本体に装着したまま充電するときは、必ずアンテナを外すか、一番縮めた状態で行ってください。
- バッテリーパックを本体に装着したまま充電するときは、必ず本体の電源を“OFF”にしてください。
- 使用できるのは、日本国内に限られています。

液晶ディスプレイについてのご注意

- 使用周辺温度が低いときや本製品自体が冷えているとき、または寒冷地でご使用のときは、電源を“ON”にしても液晶ディスプレイが正常な明るさになるまで数分かかることがありますが、故障ではありません。
  このような場合は、一度電源を“OFF”にし、しばらく常温(10～30℃)の環境に放置したあと、ご使用ください。

液晶ディスプレイについてのご注意

- 液晶ディスプレイは高密度技術で作られて99.98%以上は有効画素があり、0.01%以下の非点灯や常時点灯などの画素が含まれることがありますが故障ではありません。
- 表示内容によっては、明るさのムラが発生することがありますが、故障ではありません。
- 長時間同一画面を表示しますと、焼き付きが生じる場合がありますが、このような場合は、電源を切って約1日程度放置することで回復します。
- 液晶パネルを強く押さえないでください。
- 先の尖ったものでたたいたり、引っかいたりしないでください。
- 液晶パネルを清掃するときは、柔らかい布にイソプロピルアルコールを十分含ませて軽く拭き取ってください。

TV放送受信時のご注意

本機は、広帯域受信機にTV受信機が内蔵された構成になっており、TV放送受信時にカラー液晶画面を表示させるとTV受信機、音声のみの場合は広帯域受信機と回路が自動的に切り替わります。そのため、TV電波の受信状況が悪い場合、TV画面にノイズが入りクオリティーが低下すると共に音声にもノイズが混じる場合があります。
これは上記のような理由によるもので故障ではありません。
このような場合は、場所を移動してみる・TV専用のアンテナを使うなどしていただいて、画面がハッキリ写るようにしていただければ、音声のクオリティーも向上します。
また、画面の表示を消して広帯域受信機として音声のみをお楽しみいただくこともできます。

お願いとおことわり

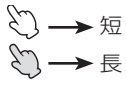
◎本機は、厳重な管理のもとに生産、出荷されていますが、万一ご不審な点、お気づきの点などがございましたら、できるだけ早くお買い上げいただいた販売店または弊社営業所へご連絡ください。

◎本機は広帯域受信機です。本機の内部発振(スプリアス)により、受信できなっかたり、雑音を発生する周波数もありますが、故障ではありません。

◇この取扱説明書は、予告なく変更することがあります。

◇本文の操作説明に使用している操作図や状態表示は、操作時の一例ですから、ご使用の機器の状態とは一致しないことがあります。

◇操作図の中でキーをふつうに短く押すときと、長く(0.5秒以上)押すときの区別を次のように表現しています。



◇ビープ音(操作音)などは、出荷時の初期状態で説明していますので、運用中に設定を変更された場合は、説明と合わないことがあります。
なお、初期時と表現しているのは、工場出荷時またはオールリセット(☞P66)直後の設定状態をいいます。

◇説明の中で(☞P00)の表示は、その項目を詳しく説明した参照ページを示しています。

ディスプレイの表記について

本文の表示説明で、カラー液晶(多機能画面)とSUB液晶による表示例を説明していますが、デュアル表示のときは、SUB液晶は電圧表示となります。

電池残量表示と充電についてのご注意

バッテリーパック(BP-206)の容量が残り少なくなると、電池マークが半分になります。
さらに少なくなると、SUB液晶のみのときは表示が薄くなると使用できなくなります。また、カラー液晶を表示中(デュアル表示)はすぐに使用できなくなります。
[POWER]を少し長く(0.5秒以上)押して電源を切り、バッテリーパックを充電してください。

受信周波数についてのご注意

下記の周波数範囲外は、受信できません。

0.495～252.895MHz	415.100～ 809.895MHz
255.100～261.895MHz	834.100～ 859.895MHz
266.100～270.895MHz	889.100～ 914.895MHz
275.100～379.895MHz	960.100～2450.095MHz
382.100～411.895MHz	

受信周波数の詳細については、定格(☞P73)をご覧ください。

電波法上のご注意

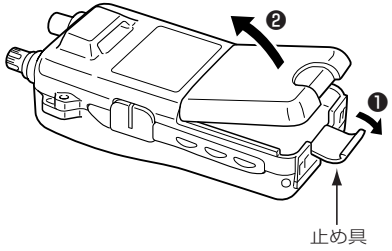
◎電波法第59条で**「特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受して、その存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない」**と通信の秘密に関して定められています。
本機の取り扱いには十分配慮し、電波法を守ってください。

2 ご使用の前に

2-1 バッテリーパックのセット

1.バッテリーカバーをはずす

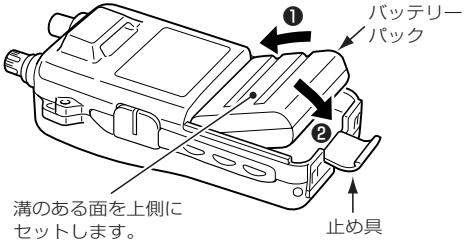
①本機後面のバッテリーカバーの止め具をはずします。
②バッテリーカバーを取りはずします。



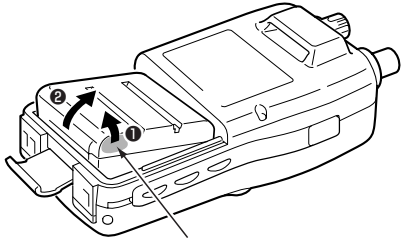
2.バッテリーパックをセットする

付属品のバッテリーパックは下図を参照してセットしてください。

■バッテリーパックのセット



■バッテリーパックの取り出しかた



この部分に指をあて❶の方向に少し持ち上げ❷の方向に取り出します。

■運用時間の目安

	TV映像・音声受信時 (カラー液晶モニター使用)	受信機能の運用時 ※TV映像受信時以外 (SUB液晶表示使用)	パワーセーブ状態 (SUB液晶表示使用、1:8パワーセーブ時)
リチウムイオン電池 (BP-206)	約1時間45分	約2時間10分	約25時間30分
アルカリ電池	約45分	約57分	約27時間30分
ニカド電池	約50分	約60分	約12時間50分

※電池の種類や使用環境温度などにより、使用時間は変化します。

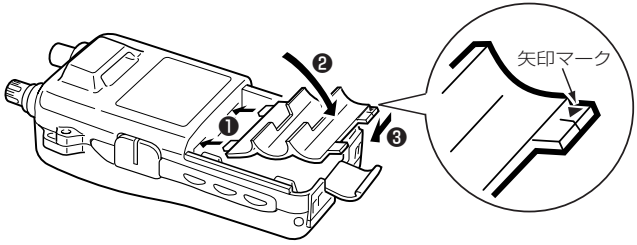
2-2 乾電池のセット

1.バッテリーカバーをはずす

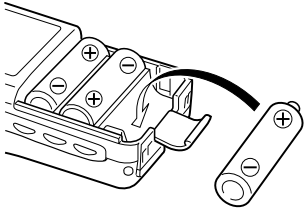
①本機後面のバッテリーカバーの止め具をはずします。
②バッテリーカバーを取りはずします。

2.乾電池をセットする

本機をアルカリ電池またはニカド電池で運用するときは、下図を参照して、付属の乾電池用アダプターをセットしてください。
単三形アルカリ乾電池を3本収容できます。



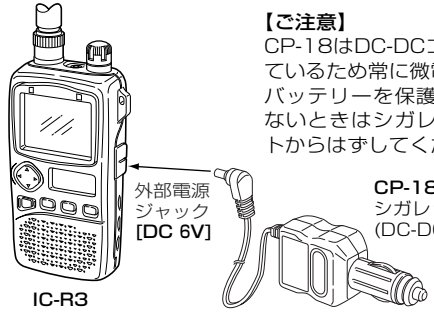
❶乾電池用スペーサーをツメ受け口に差し込みます。
❷バッテリー収納部に乾電池用スペーサーを装着します。
❸矢印の方向にスライドしてセットします。



〔ご注意〕
乾電池は、プラス⊕とマイナス⊖をまちがえないように注意して入れてください。
乾電池は、種類、銘柄のちがうものや、新旧の電池を混ぜて使用しないでください。

2-3 外部電源の接続

別売品のCP-18(シガレットライターケーブル)を使用することにより、車内のDC 12V系のシガレットライターから電源を供給することができます。
なお、当社指定(CP-18)以外の外部電源を使用すると、故障の原因となります。
※本機を使用しないときは、外部電源ジャックに外部電源(CP-18)を接続しないでください。

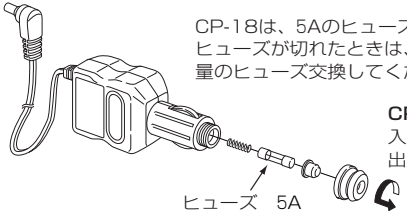


【ご注意】
CP-18はDC-DCコンバーターを内蔵しているため常に微電流が流れています。バッテリーを保護するためにも使用しないときはシガレットライターソケットからはずしてください。

CP-18(別売品)
シガレットライターケーブル
(DC-DCコンバーター内蔵)

シガレットライター
ソケットへ

■ヒューズの交換のしかた



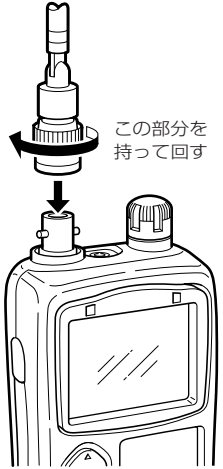
CP-18は、5Aのヒューズが内蔵されています。
ヒューズが切れたときは、下図の方法で同じ容量のヒューズ交換してください。

CP-18
入力電圧:DC12～16V
出力電圧:DC6V、1.5A

2-4 付属品の取り付けかた

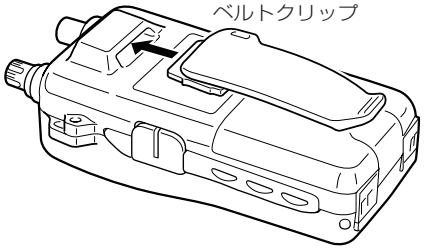
1.アンテナの取り付け

付属のアンテナでも十分に受信感度を得られますが、低い周波数帯や受信する場所により受信しにくい場合があります。
市販のアンテナを使用すると受信性能がさらによくなる場合がありますので、販売店にご相談ください。



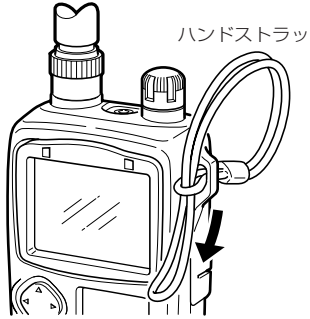
2.ベルトクリップの取り付け

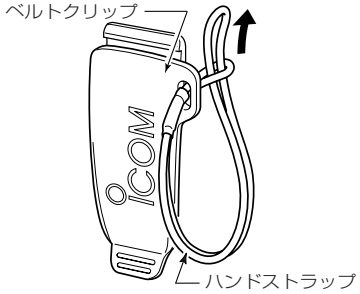
ベルトクリップ取り付け部に**“カチッ”**と音がするまでベルトクリップをはめ込んでください。



■ハンドストラップの取り付け

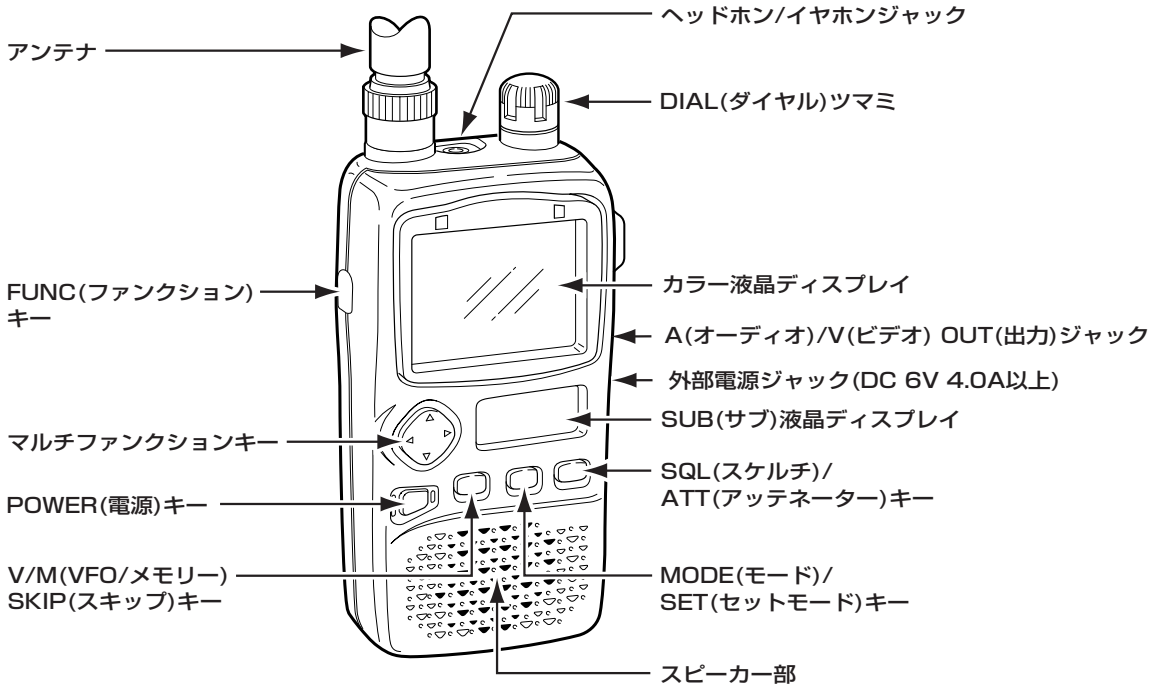
運用時持ち歩くときに、市販のハンドストラップを手首にとおしておくと、落としたりしないで安全です。





3-1 各部の名称

キーのおもな機能・操作については、11〜12ページをご覧ください。



3-2 キーの操作と機能

各キーは、短く押す操作、長く(0.5秒以上)押す操作、および**[FUNC]**(ファンクション)キーとの組み合わせで、各種の機能が設定できます。また、運用モード(VFOモード/メモリーモードなど)により、機能がちがうこともあります。

1.キーを単独で押したときの機能

キーの名称		キーを短く押したとき		キーを長く(0.5秒以上)押したとき	
		VFOモード	メモリーモード	VFOモード	メモリーモード
POWER				電源を“ON/OFF”する(☞P15)	
V/M (SKIP)		メモリーモードにする(☞P20)	VFOモードにする(☞P20)	M-CH選択状態にする(☞P27)	
MODE (SET)		受信モード(電波型式)を切り替える(☞P21)		チューニングステップ設定状態にする(☞P22)	
SQL (ATT)		押している間受信モニターをする(☞P23)			
マルチファンクション	▲	音量をアップする(☞P16)		音量を連続してアップする(☞P16)	
	▼	音量をダウンする(☞P16)		音量を連続してダウンする(☞P16)	
	▶	バンドをアップする(☞P21)	M-CHの内容をVFOに転送する (☞P26)	アップスキャンのスタート(☞P33)	
	◀	バンドをダウンする(☞P21)	M-CHの内容をVFOに転送する (☞P26)	ダウンスキャンのスタート(☞P33)	
DIALツマミ (回したときの機能)		■VFOモード時は、設定したTS(チューニングステップ)で周波数を設定する(☞P22) ■メモリーモード時は、M-CH(メモリーチャンネル)を切り替える(☞P26) ■**[MODE(SET)]**を押しながら**[DIAL]**を回すと、チューニングステップを設定する(☞P22) ■**[SQL(ATT)]**を押しながら**[DIAL]**を回すと、スケルチレベルを設定する(☞P23) ■VFOモード時は、**[◀]/[▶]**を押しながら**[DIAL]**を回すと、プログラムスキャン(☞P36)/バンドスキャン(☞P37)/フルスキャン(☞P37)を選択する ■メモリーモード時は、**[◀]/[▶]**を押しながら**[DIAL]**を回すと、フルスキャン(☞P39)/バンクスキャン(☞P39)を選択する			

2.[FUNC]と組み合わせて押したとき

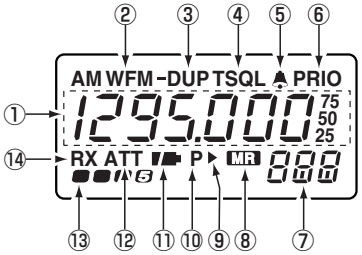
[FUNC](ファンクション)キーを押しながら、該当のキーを押すと、下記の機能になります。

キーの名称		キーを短く押したとき		キーを長く(0.5秒以上)押したとき	
		VFOモード	メモリーモード	VFOモード	メモリーモード
FUNC＋V/M (SKIP)		スキップ周波数を指定する (☞P38)	スキップチャンネルを指定する (☞P40)		メモリーネーム設定状態にする (☞P29)
FUNC＋MODE (SET)		セットモードを指定する(☞P46)		ロック機能を“ON/OFF”する(☞P64)	
FUNC＋SQL (ATT)		アッテネーターを“ON/OFF”する(☞P24)			
マルチファンクション	FUNC＋▲	FM-TVモード/AM-TVモードを指定する(☞P54)		カラー液晶の表示を“ON/OFF”する(☞P17)	
	FUNC＋▼	FM-TVモード/AM-TVモードを指定する(☞P54)		カラー液晶の表示を“ON/OFF”する(☞P17)	
	FUNC＋▶	ダイヤルセレクト周波数の設定(☞P22)		アップトーンスキャンのスタート(☞P44)	
	FUNC＋◀	ダイヤルセレクト周波数の設定(☞P22)		ダウントーンスキャンのスタート(☞P44)	
FUNC＋DIALツマミ (回したときの機能)		■VFOモード時は、設定したダイヤルステップ(100k/1M/10M)で周波数を設定する(☞P22) ■メモリーモード時は、メモリーバンクを切り替える(☞P26) ■アッテネーター機能選択時は、アッテネーター(OFF、ATT1、ATT2、ATT3、ATT4)を選択する(☞P24) ■カラー液晶動作時は、[▲]/[▼]を短く押すごとにカラー液晶の表示画面を切り替える(☞P19)			

【注】メモリーネームの設定はカラー液晶を表示して標準画面、多機能画面選択時のみで設定できます。

3-3 ディスプレイ

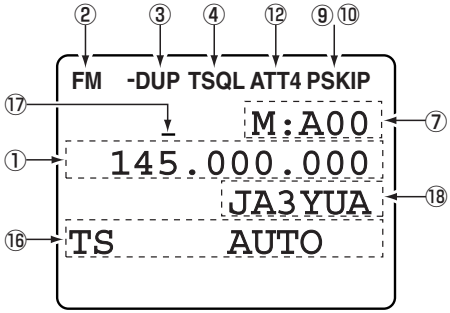
1.SUB液晶ディスプレイ



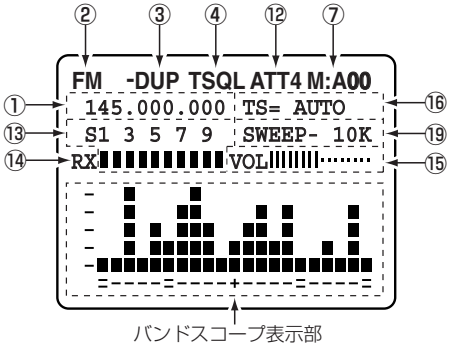
《ご注意》
カラー液晶とSUB液晶による、デュアル表示時のとき、SUB液晶は電圧表示となります。

2.カラー液晶ディスプレイ

■標準画面

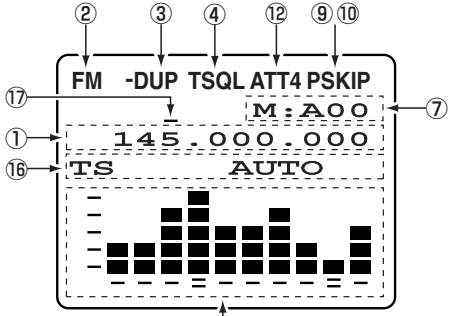


■バンドスコープ画面



バンドスコープ表示部

■サーチ画面



サーチ表示部

■多機能画面

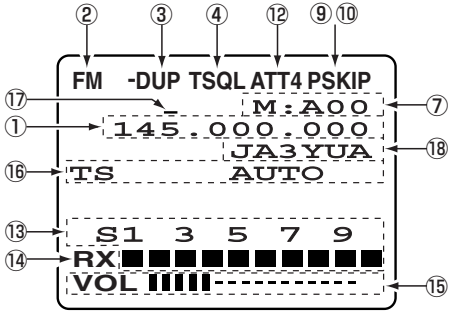


	表　示	表　示　内　容
①	**周波数表示部**	受信する周波数を表示します。 セットモード時は設定内容を表示します。
②	**MODE表示部**	MODE(電波型式)を表示します。 AM/WFM/FMの3種類があります。
③	**デュプレックス表示部**	デュプレックスモードでの受信状態を表示します。
④	**トーン表示部**	トーンスケルチでの待ち受け受信状態を表示します。
⑤	**ベルマーク表示部**	ポケットビープ、プライオリティベルを設定したときに点灯します。
⑥	**プライオリティ表示部**	プライオリティスキャンが動作中のときに点灯します。
⑦	**メモリー表示部**	メモリーバンク、M-CH番号、セットモード項目などを表示します。
⑧	**メモリーモード表示部**	メモリーモードになっているときに点灯します。
⑨	**スキップマーク**	メモリースキップ「SKIP(▶)」状態を表示します。
⑩	**スキップ周波数マーク**	スキップ周波数「P SKIP(P)」状態を表示します。
⑪	**電池マーク**	電池の残容量を表示します。 残りが少なくなるとマークが半分になり、さらに少なくなると“LoW V”を表示します。

	表　示	表　示　内　容
⑫	**アッテネーター表示部**	強力な信号を減衰させるアッテネーターが、動作していることを表示します。
⑬	**Sメーター**	受信時の信号強度を表示します。
⑭	**受信表示部**	受信中でスケルチが開いているときに点灯します。
⑮	**受信音量表示部**	受信時の音量レベルを表示します。
⑯	**チューニングステップ表示**	周波数設定時のチューニングステップ(TS)周波数を表示します。
⑰	**ダイヤルステップ表示部**	ダイヤルステップが設定されている桁(100kHz/1MHz/10MHz)を表示します。
⑱	**メモリーネーム表示部**	M-CHに付けたメモリーネームを表示します。
⑲	**スイープステップ周波数表示部**	バンドスコープ運用時のスイープステップ周波数を表示します。

4 基本操作のしかた

4-1電源の“ON/OFF”と音量の調整

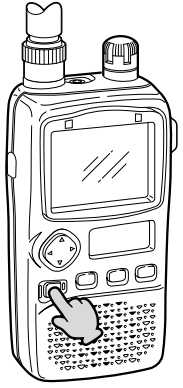
1.電源を入れる

[POWER]を少し長く(0.5秒以上)押します。

- ビープ音が鳴り、電源電圧を表示したあと、電源を切る前の状態を表示します。

※バッテリーパック(BP-206)または乾電池を本機の電源として用いる場合、カラー液晶の表示は**“OFF”**になっています。(初期時)

◎電源を切るときも、同じ操作をします。



電源電圧を表示する

電圧表示後、周波数を表示する

■デュアル表示について

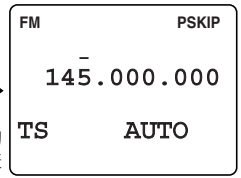
カラー液晶とSUB液晶によるデュアル表示状態(下記参照)で電源を**“OFF”**にし、再度電源を**“ON”**にするとカラー液晶は**「IC-R3」**と**「Icom Inc.」**を表示したあと、電源を切る前の状態を表示します。

- 外部電源(5.5～6.3V)が接続され、セットモードのDisplay(dISP)項目(☞P17)でAUTO(AUto)状態(初期時)のとき、電源を**“ON”**にすると、カラー液晶とSUB液晶のデュアル表示となる
- セットモードのDisplay(dISP)項目(☞P51)でMANUAL(mAnUAL)を選択し、カラー液晶を表示させると、デュアル表示となる
  詳しくは(☞P17)を参照

カラー液晶

IC-R3を表示したあと電源を切る前の状態を表示する

カラー液晶



SUB液晶

電圧を表示する

SUB液晶

電圧を表示する

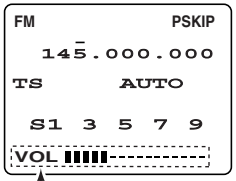
2.音量を調整する

マルチファンクションの**[▲]**または**[▼]**を押します。
なお、押し続けると連続動作になります。
カラー液晶またはSUB液晶ディスプレイの音量レベル表示は下記のようになります。

- キーを押すごとにビープ音が鳴りますので、音量のめやすになります。
  〔SETモードでビープ音の設定項目がVOLUME(VoLUmE)設定時〕

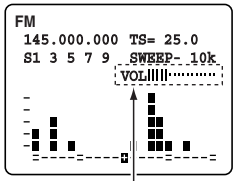
● カラー液晶

多機能画面



音量レベルを表示する

バンドスコープ画面



音量レベルを表示する

※標準画面、サーチ画面選択時の音量表示はSUB液晶ディスプレイに表示します。

● SUB液晶

音量レベルを表示する

■音量レベルの表示について

マルチファンクションの**[▲]**を押すと音量がアップし、**[▼]**を押すと音量がダウンします。

- 音量調整中は、32段階の音量レベルを7段階に分けて表示します。

表　示	音量レベル
------	0**(無音)**
0-----	1～6
★00----	7～12
000---	13～18
0000--	19～24
00000-	25～30
000000	31**(最大)**

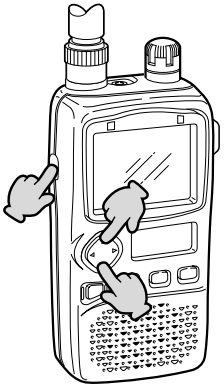
★印は、初期時の設定

4-2 カラー液晶の設定

1.カラー液晶の表示について

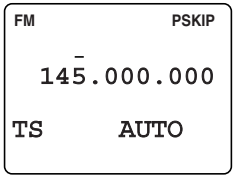
[FUNC]を押しながら**マルチファンクション**の[▲]または[▼]を長く押すと、カラー液晶の表示を**“ON/OFF”**します。
カラー液晶の表示は、セットモード(☞P45、51)のDisplay(dISP)項目で下記のように表示条件を選択することができます。
※初期時は、「AUTO(AUto)」に設定されています。
※初期状態で外部電源(5.5～6.3V)を接続し、電源を**“ON”**にすると、カラー液晶とSUB液晶によるデュアル表示となります。

Display(dISP)	AUTO (AUto)	外部電源(☞P8)を接続しているときは、カラー液晶ディスプレイを表示させ電源を**“ON”**にするとデュアル表示となる なお、外部電源を接続していないときは、カラー液晶の表示は**“OFF”**となる ※[FUNC]を押しながら、**マルチファンクション**の[▲]または[▼]を長く押すと、カラー液晶ディスプレイ表示を**“ON/OFF”**できますが、この切り替えは一時的なものであり、いったん電源を**“OFF”**にすると、上記の動作にもどる
	MANUAL (mAnUAL)	[FUNC]を押しながら、**マルチファンクション**の[▲]または[▼]を長く押すと、カラー液晶ディスプレイ表示を**“ON/OFF”**する ※カラー液晶を表示させ、デュアル表示状態で、電源を**“OFF”**にし、再度電源を**“ON”**にするとデュアル表示となる



● デュアル表示状態

カラー液晶



SUB液晶

カラー液晶の表示中は、電圧を表示する

2.Contrast(コントラスト)とBright(輝度)の調整

周囲の明るさに応じて、カラー液晶の明るさを調整できます。

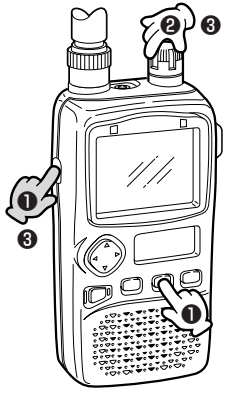
①[FUNC]を押しながら[MODE(SET)]を押して、セットモードを表示します。

②[DIAL]を回して、“Contrast”または“Bright”項目を選択します。

③[FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、“Contrast”または“Bright”の調整をします。

(**マルチファンクション**の[◀]または[▶]で同様に調整可能)

※0～100%の範囲で調整できます。



セットモード画面

```
Key Lock    : NORMAL
Display     :  AUTO
Contrast    :   50%
Bright      :   50%
Back Color  :    4
```

セットモード画面

```
Key Lock    : NORMAL
Display     :  AUTO
Contrast    :   50%
Bright      :   50%
Back Color  :    4
```

3.Back Color(バックカラー)の調整

カラー液晶画面のバックライトの色を、お好みに応じて選択することができます。

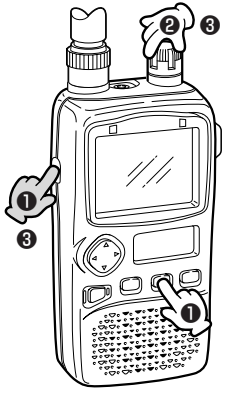
①[FUNC]を押しながら[MODE(SET)]を押して、セットモードを表示します。

②[DIAL]を回して、“Back Color”項目を選択します。

③[FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、“Back Color”を選択します。

(**マルチファンクション**の[◀]または[▶]で同様に選択可能)

※0(黒)⇒1(桃色)⇒2(緑)⇒3(橙色)⇒4(青)⇒5(紫)⇒6(黄緑)⇒7(白)の中から選択できます。



セットモード画面

```
Key Lock    : NORMAL
Display     :  AUTO
Contrast    :   50%
Bright      :   50%
Back Color  :    4
```

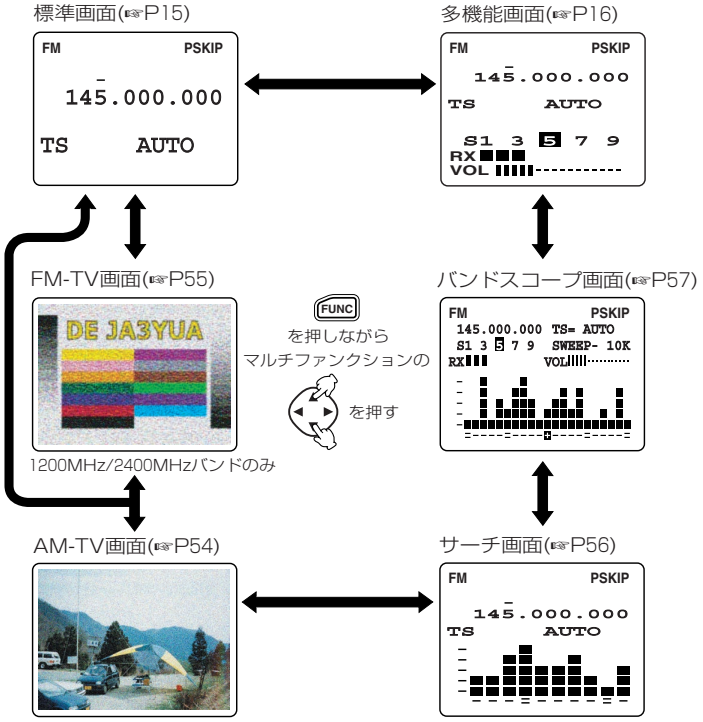
4-2 カラー液晶の設定(つづき)

4.カラー液晶の画面切り替えについて

[FUNC]を押しながら**マルチファンクション**の**[▼]**または**[▲]**を短く押すごとに、カラー液晶の画面を切り替えます。

※テレビ(TV)画面については(☞P52)を参照してください。

- 1Mバンド、5Mバンド選択時、カラー液晶の画面は表示できません。
- 先にTVバンドを選択し、カラー液晶を表示させた場合、カラー液晶の画面切り替えはできません。



4-3 運用モード(VFO/メモリー)の切り替えかた

VFOモードとメモリーモードは、下記のように使い分けます。

1.VFOモード

[DIAL]で周波数を設定するモードです。

- VFOモードで設定した周波数を、**VFO周波数**といいます。
- VFOモードで行うスキャンを、**VFO(周波数)スキャン**といいます。(☞P32)

2.メモリーモード

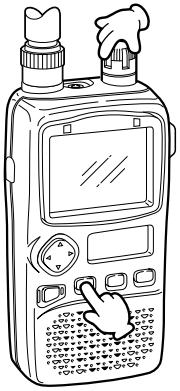
あらかじめ記憶させたM-CHを呼び出して運用するモードです。

- メモリーモードで行うスキャンを、**メモリースキャン**といいます。(☞P32)

1.VFOモードにするには

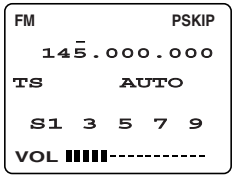
[V/M]を短く押します。

- 1回押すごとにVFOモードとメモリーモードが切り替わります。
- 以後 、[DIAL]を回すと、周波数の設定ができます。



●VFOモード表示

カラー液晶



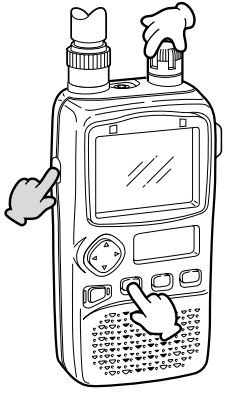
SUB液晶

周波数の設定は22ページ、バンドの切り替えかたは21ページをご覧ください。

2.メモリーモードにするには

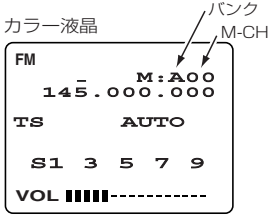
[V/M]を短く押します。

- **"MR(SUB液晶)/M(カラー液晶)"**表示とバンク表示およびチャンネル番号が点灯します。
- 以後、[DIAL]を回すと、M-CHの切り替えができます。
- バンクの切り替えは、[FUNC]を押しながら[DIAL]を回します。



●メモリーモード表示

カラー液晶



SUB液晶

メモリーの使いかたは、25ページをご覧ください。

4-4 バンド/受信モード(電波型式)の切り替えかた

■バンドについて

0.5～2400MHzの周波数帯を11バンド、テレビ放送専用バンド(TVバンド)の計12バンドに分けています。

バンドごとの周波数範囲と初期表示周波数は、次のとおりです。

※( )内は初期周波数　単位MHz

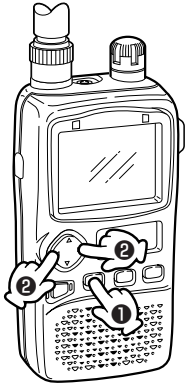
1Mバンド (1.620)	0.495～1.620
5Mバンド (5.000)	1.625～29.995
50Mバンド (51.000)	30.000～75.995
FMバンド (76.000)	76.000～107.750
AIRバンド (118.000)	108.000～135.975
VHFバンド (145.000)	136.000～252.895
300Mバンド (370.000)	255.100～379.895
UHFバンド (433.000)	382.100～769.750
800Mバンド (850.000)	769.800～914.895
1200Mバンド (1295.000)	960.100～1399.995
2400Mバンド (2425.000)	1400.000～2450.0950
TVバンド (1CH)	1CH～62CH

1.バンドの切り替えかた

①**[V/M]**を短く押し、VFOモードにします。

②**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**を押します。

- 押すごとに、バンドがアップまたはダウン方向に切り替わります。



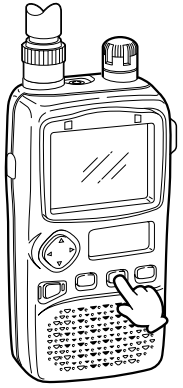
スキャン中に**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**を押すとスキャンを解除します。

2.受信モードの切り替えかた

◎受信モード(電波型式)は、通常バンド(周波数)に合わせて自動的に切り替わります。

[MODE]を短く押します。

- 押すごとに**"FM"→"WFM"→"AM"→"AUTO"→"FM"**と切り替わります。
- 設定した受信モードは運用中のバンドのみ有効です。

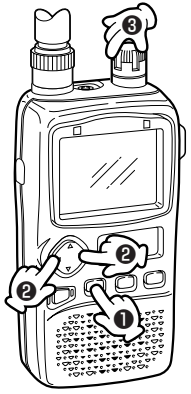


VFO/メモリーモードに関係なく受信モードの切り替えができます。

4-5 周波数の設定とTSの切り替えかた

■周波数の設定のしかた

①[V/M]を短く押し、VFOモードにします。
②**マルチファンクション**の[◀]または[▶]を押し、目的の周波数に近いバンドにします。
③[DIAL]を回します。

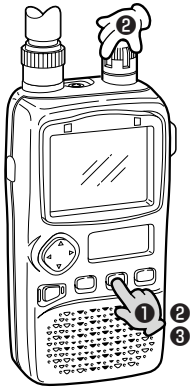


●AUTO TS(自動チューニングステップ)により、バンドおよび電波型式に合ったステップで、周波数が変化します。

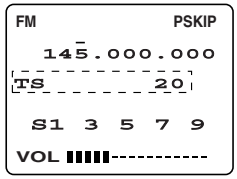
◆TS(チューニングステップ)を変えたいときは

①[MODE]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
TSの設定表示になります。
●通常(初期時)は**"AUTO"**に設定しています。
②[MODE]を押しながら[DIAL]を回し、TSを選択します。
●100/50/30/25/20/15/12.5/10/6.25/5kHzおよびAUTO(初期時)が選択できます。
③[MODE]から指を離すと、周波数表示に戻ります。
※TSはバンドごとに設定できます。

《ご注意》
カラー液晶を表示しているときは、②だけを操作してください。



カラー液晶



20KHzステップ選択時

SUB液晶

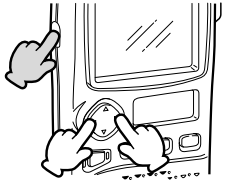
AUto選択時

◆周波数を大きく変えたいときは

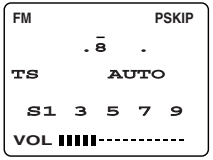
[FUNC]を押しながら[DIAL]を回します。
●1MHzステップで周波数が切り替わります。(初期時)

◆ダイヤルステップを変更するときは

●[FUNC]を押しながら**マルチファンクション**の[◀]または[▶]を押し、ダイヤルステップ(dS)を選択します。



カラー液晶



100kHzステップの選択

SUB液晶

1MHzステップの選択

4-6 スケルチの設定と受信モニターのしかた

弱い信号を排除し、好みのレベル以上の信号だけを受信したり、初期設定レベルでは受信できない弱い信号を受信するのに効果があります。

初期時は、AUTO(オートスケルチ)に設定していますが、お好みによりスケルチレベルを9段階、または常にスケルチを開いた状態にするOPEN(オープン)のいずれかに設定できます。

スケルチはAUTOで最も開きやすくしていますが、レベル1～9の数値は小さいほど、弱い信号でも入感するようにしています。

■スケルチレベルの確認と変更のしかた

①[SQL]を押しながら[DIAL]を1クリック回すと、現在設定しているスケルチレベルの表示になります。
- 初期時は**"AUTO"**に設定しています。

②[SQL]を押しながら[DIAL]を回し、信号強度に合ったスケルチレベルに調整してください。

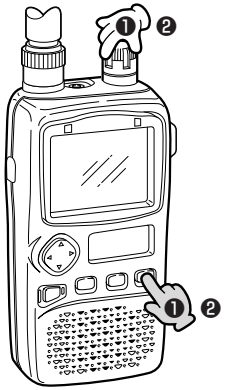
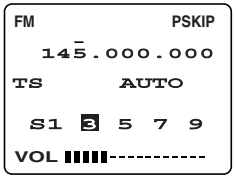


表 示	スケルチレベル
OPEN	オープン(開放)
★ AUTO	オート(自動)
LEVEL 1	レベル1
LEVEL2	レベル2
LEVEL3	レベル3
LEVEL4	レベル4
LEVEL5	レベル5
LEVEL6	レベル6
LEVEL7	レベル7
LEVEL8	レベル8
LEVEL9	レベル9

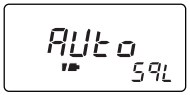
★印は、初期時の設定

カラー液晶



レベル3選択時

SUB液晶



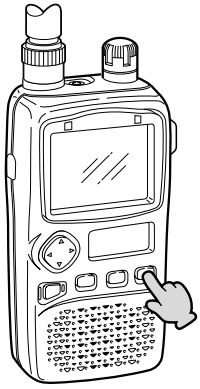
AUto(自動)選択時

※標準画面、サーチ画面選択時のスケルチレベルはSUB液晶ディスプレイに表示されます。

■受信モニターのしかた

受信信号が弱かったり、途切れたりして聞こえにくい場合に使用すると効果があります。

[SQL]を押している間、スケルチを開いて受信します。
左記スケルチレベル**"OPEN"**と同じ状態になります。

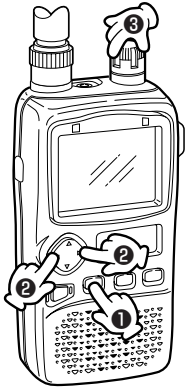


[SQL]の動作を、1回押すごとに**"ON/OFF"**するようにセットモードで変更できます。
(モニターホールド機能の設定 ☞P50)

4-7 受信のしかた〔例. FMラジオ 83.1MHzを受信するには〕

1.70Mバンドを設定する

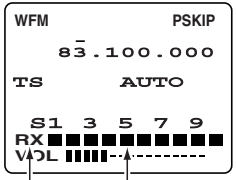
①[V/M]を短く押し、VFOモードにします。
②マルチファンクションの[◀]または[▶]を押し、70Mバンドにします。
(初期表示:76.000MHz)
●自動的にWFMモードになります。
③[DIAL]を回し、83.100MHzを設定します。
※[FUNC]を押しながら[DIAL]を回して1MHzステップも使うと、すばやく設定できます。(☞P22)



2.信号を受信すると

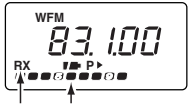
受信すると、ラジオ放送が聞こえてきます。
●"RX"表示が点灯し、信号の強さに応じてSメーターが振れます。

カラー液晶



点灯　Sメーター

SUB液晶



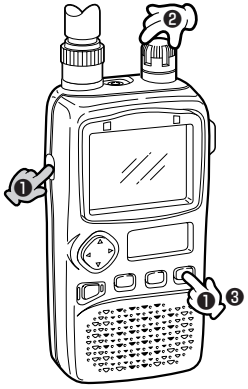
点灯 Sメーター

受信できなかったときは、スケルチレベルを変えてみると受信できることがあります。(☞P23)

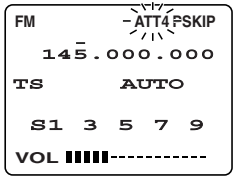
■アッテネーターの使いかた

強力な信号を受信して、受信音がひずんで聞こえるときに、アッテネーター(ATT)機能で信号を減衰させることができます。
なお、1150.000MHz以上の周波数帯では動作しません。

①[FUNC]を押しながら[SQL(ATT)]を押し、アッテネーター選択状態にします。
②[DIAL]を回し、アッテネーターを選択します。
●OFF(使用しない)/1/2/3/4が選択できます。
③選択後[SQL(ATT)]を押します。

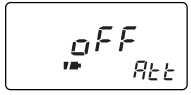


カラー液晶



アッテネーター}4~選択時

SUB液晶



アッテネーター}OFF~選択時(初期時)

5 メモリーの使いかた

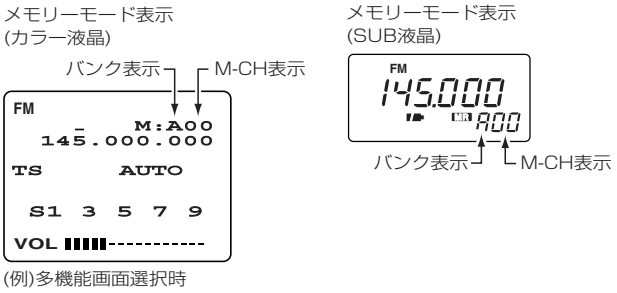
5-1 メモリーモードについて

よく使用する周波数を、メモリーチャンネル(以下、M-CHと略記します)にあらかじめ記憶させておき、そのM-CHで運用するためのモードです。

本機のM-CHは、400CHあります。
M-CHを扱いやすくするため、下表のとおりバンクA～Hの8グループに分けています。(1グループ：50CH)
そのグループ分けを**メモリーバンク**といいます。
1バンクには、00～49のM-CHを割り当てています。

バンク	M-CH	M-CHの内容
A	00～49	
B(b)	00～49	●通常のM-CHとして使用します。
C	00～49	●工場出荷時、各バンクの“00”に145.000000MHz、“01”に433.000000MHzを記憶しています。
D(d)	00～49	
E	00～49	
F	00～49	●各バンクの“02”～“49”はなにも記憶していないブランクCHにしています。
G	00～49	
H	00～49	
00A～00B(b) ⟆ 24A～24B(b)		●プログラムCHとして使用します。 ●プログラムCHの使用については(☞P34)を参照してください。

●バンクとM-CHの表示例



(例)多機能画面選択時

■M-CHについて

- 初期時のM-CHは、各バンクの“00”に145.000000MHz、“01”に433.000000MHzを記憶しています。
  各バンクの“02”～“49”はなにも記憶していないブランクCHにしています。
- **すべてのM-CHで周波数以外に、下記の内容を記憶します。**
  ①デュプレックスの**“ON/OFF”**とシフト方向(+/−)
  ②オフセット周波数
  ③トーンスケルチの**“ON/OFF”**とトーン周波数
  ④TS(チューニングステップ)
  ⑤受信モード(電波型式)
  ⑥スキップ指定

※M-CHのほかに、スキャン範囲設定用として25組のプログラムチャンネルがあります。(☞P34)

5-2 M-CH(メモリーチャンネル)の呼び出しかた

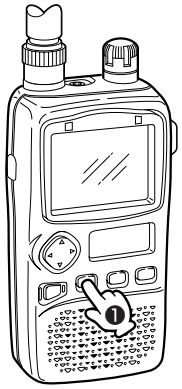
メモリーモードのときに[DIAL]を回すと、M-CHの呼び出しができます。
なにも記憶していないブランクCH(初期時はCH-02～CH-49)は呼び出しができません。
周波数の記憶しているM-CHだけを呼び出します。

メモリーモードのときに[FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、バンクの選択ができます。
なお、バンクのあとにスキャン範囲設定用のプログラムチャンネルが選択できます。

〔例〕バンク“B”のM-CH“20”を呼び出すには

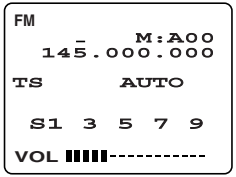
1.メモリーモードにする

①**[V/M]**を短く押し、メモリーモードにします。



●メモリーモードにする

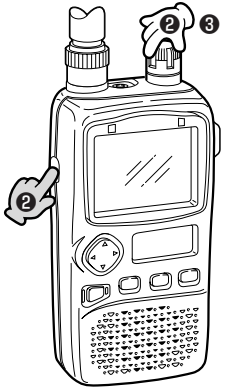
カラー液晶



SUB液晶

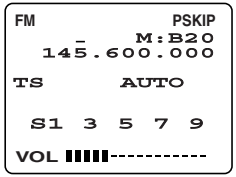
2.バンク“B”とM-CH“20”を呼び出す

②**[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回し、バンクを**“B”**にします。
③**[DIAL]**を回し、M-CHを**“20”**にします。



●希望のバンクとM-CHを呼び出す

カラー液晶



SUB液晶

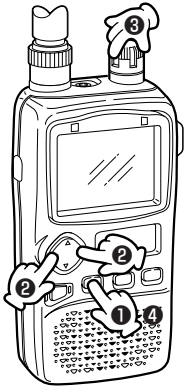
■M-CHの内容をVFOに転送するときは
マルチファンクションの**[◀]**または**[▶]**を短く押すと、M-CHの内容をVFOに転送し、VFOモードになります。

5-3 メモリー(書き込み)のしかた

〔例〕バンク“A”のM-CH“15”に“433.520MHz”を書き込む

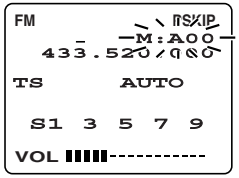
1.433.520を設定する

①[V/M]を短く押し、VFOモードにします。
②マルチファンクションの[◀]または[▶]を押し、UHFバンドにします。
③[DIAL]を回し、433.520MHzを設定します。
④[V/M]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、M-CH選択状態にします。
※表示されたM-CHに書き込むときは、⑦の操作を行ってください。



●周波数を設定し、M-CH選択状態にする

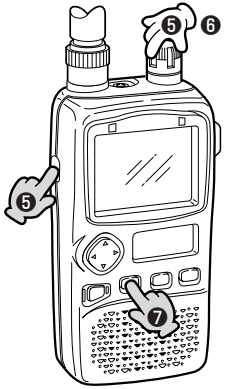
カラー液晶



SUB液晶

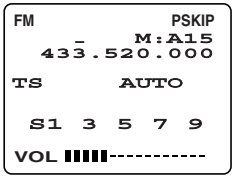
2.バンクとM-CHを指定して書き込む

⑤[FUNC]を押しながら[DIAL]を回し、バンクを“A”にします。
⑥[DIAL]を回し、M-CHを“15”にします。
⑦[V/M]を約1秒(ピッピー、ピピと鳴るまで)押し、M-CHに書き込みます。
●書き込み後はVFOモードに戻ります。



●バンクとM-CHを指定して書き込む

カラー液晶



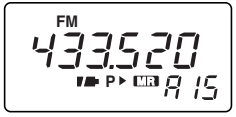
SUB液晶

■書き込み後のオートインクリメントについて

左記⑦[V/M]を書き込み完了後も押し続ける(約1秒間、ピッピー、ピピ、ピーが鳴るまで)とM-CHが1CHだけ自動的に繰り上がります。
M-CHに順次続けて書き込みをするときに便利です。

◎オートインクリメントの動作

[V/M]を押し続けると、約1秒で書き込みを完了し、インクリメント後VFOモードになります。



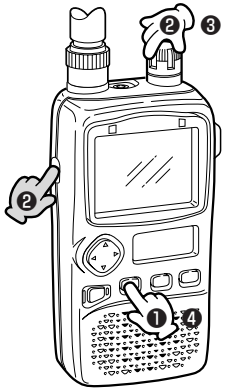
約2秒押し続けると、自動的にM-CHが繰り上がる

5-4 M-CHの内容を他のM-CH(VFO)に複写するには

〔例〕バンク“A”のM-CH“15”をバンク“C”のM-CH“20”に複写するとき

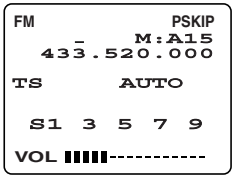
1.バンク“A”とM-CH“15”を呼び出す

①[V/M]を短く押し、メモリーモードにします。
②[FUNC]を押しながら[DIAL]を回し、バンクを**“A”**にします。
③[DIAL]を回し、M-CHを**“15”**にします。
④[V/M]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、M-CH選択状態にします。
※このとき、M-CH表示は**“VF”**(VFO書き込み)を表示します。
※長く押しすぎると、VFO書き込み動作になります。
※M-CH選択状態を解除するときは、[MODE]を押してください。



●バンクA、M-CH15の内容

カラー液晶



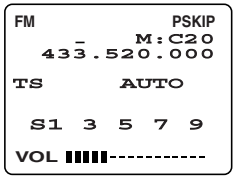
SUB液晶

2.バンク“C”とM-CH“20”を選択し複写する

⑤[FUNC]を押しながら[DIAL]を回し、バンクを**“C”**にします。
※このとき**“VF”**を選ぶとVFOに書き込みます。
⑥[DIAL]を回し、M-CHを**“20”**にします。
⑦[V/M]を長く(ピッ、ピピ、ピーが鳴るまで)押します。
●書き込み後は、複写した内容を表示します。

●バンクC、M-CH20に複写

カラー液晶



SUB液晶

※バンクA、CH-15の内容はそのまま残ります。

5-5 メモリーネームの使いかた

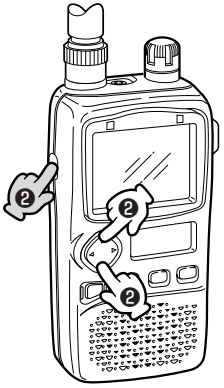
メモリーしているすべてのチャンネルに、アルファベット、数字、記号を使用し、6文字以内で名前(ネーム)を入れることができます。
メモリーネームは、カラー液晶画面の標準画面または多機能画面のみ設定できます。
また、30MHz以下の周波数帯では、カラー液晶の表示は**“OFF”**となり、メモリーネームの使用はできません。

●入力文字一覧表

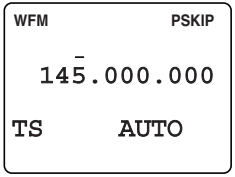
␣	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W
X	Y	Z	a	b	c	d	e	f	g	h	i
j	k	l	m	n	o	p	q	r	s	t	u
v	w	x	y	z	0	1	2	3	4	5	6
7	8	9	?	!	$	%	#	+	−	*	/
=	(	)	:	;	.	,	_	’	～		

1.標準画面/多機能画面を選択する

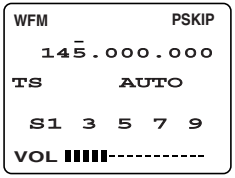
①カラー液晶を表示させます。(☞P17参照)
②**[FUNC]**を押しながら、**マルチファンクション**の**[▲]**または**[▼]**を押して、標準画面または多機能画面を選択します。



標準画面

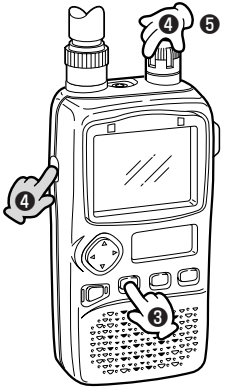


多機能画面

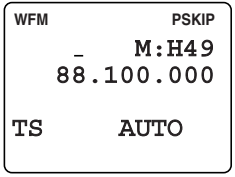


2.バンクとM-CHを選ぶ

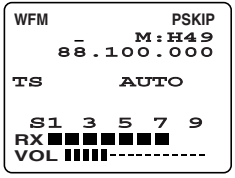
③**[V/M]**を短く押し、メモリーモードにします。
④**[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回して、メモリーバンクを選択します。
⑤**[DIAL]**を回して、M-CHを選択します。



標準画面

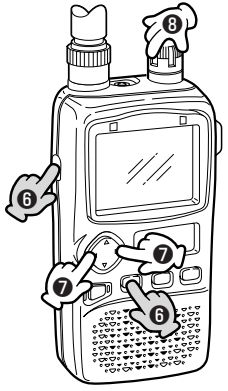


多機能画面

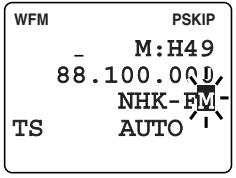


3.メモリーネーム入力にする

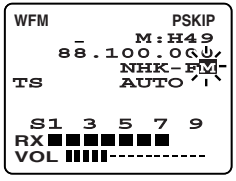
⑥[FUNC]を押しながら[V/M]を長く押して、メモリーネーム入力(修正)状態にします。
⑦**マルチファンクション**の[◀]または[▶]を押して、カーソルを移し、文字を入れるケタを選びます。
⑧[DIAL]を回して、文字を選択します。
⑨上記⑦と⑧を繰り返し、6文字以内でネームを入れます。



標準画面

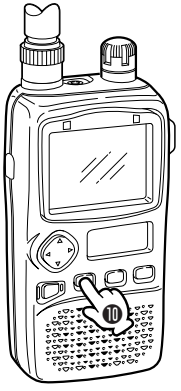


多機能画面

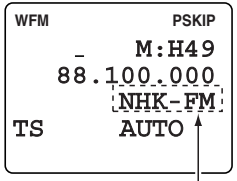


4.メモリーネームを書き込む

⑩[V/M]を押すと、ビープ音が“ピッ”と鳴って書き込みます。

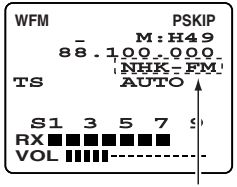


標準画面



}NHK-FM~を入力したときの表示

多機能画面



}NHK-FM~を入力したときの表示

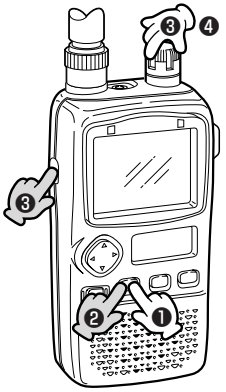
5-6 メモリークリア(消去)のしかた

不要になったM-CHの内容を消去します。

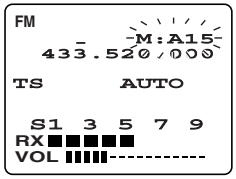
いったん消去したM-CHの内容は、復活できないのでご注意ください。

1.消去したいバンクとM-CHを選ぶ

①[V/M]を短く押し、VFOモードにします。
②[V/M]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、M-CH選択状態にします。
③[FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、メモリーバンクを選択します。
④[DIAL]を回して、M-CHを選択します。



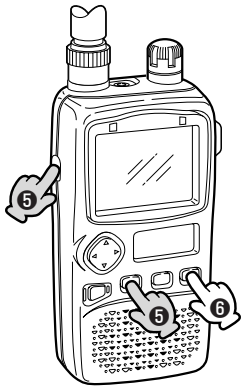
カラー液晶



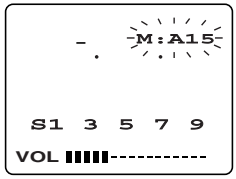
SUB液晶

2.M-CHの内容を消去する

⑤[FUNC]を押しながら[V/M]を長く(ピッ、ピピと鳴るまで))押すと、M-CHの内容を消去し、M-CH選択状態になります。
※続けて他のM-CHも消去したいときは、③または④から操作してください。
⑥消去が終わったら[MODE]または[SQL]を短く押して、VFOモードに戻します。



カラー液晶



SUB液晶

6-1 スキャンについて

スキャンとは、周波数やM-CHを自動的に切り替えて、信号の出ているところを探し出す自動選局機能です。
※一部の周波数は受信不可となっています。

基本的なスキャンは右表のとおり、VFOモードでスタートするとVFO(周波数)スキャンと、メモリーモードでスタートするとメモリースキャンがあります。

- 操作説明の中で、アップスキャンは周波数またはM-CHを下から上にスキャンし、ダウンスキャンは上から下にスキャンすることをいいます。

■スキャンの種類とその内容について

スキャンの種類		動作	操作モード	参照
VFO(周波数)	プログラムスキャン	指定した周波数範囲だけをスキャンします。 周波数範囲の指定は、25組(グループ)できます。	VFOモード	☞P34
	バンドスキャン	設定したバンド内だけをスキャンします。	VFOモード	☞P37
	フルスキャン	受信周波数範囲(0.495000～2450.000MHz)のすべてをスキャンします。	VFOモード	☞P37
メモリー	フルスキャン	周波数を書き込んでいるすべてのM-CHをスキャンします。	メモリーモード	☞P39
	バンクスキャン	あらかじめ指定したメモリーバンク内をスキャンします。	メモリーモード	☞P39
プライオリティスキャン		VFO周波数またはM-CHを聞きながら、プライオリティチャンネルを監視するスキャンです。	VFOモード メモリーモード	☞P41
トーンスキャン		トーンスケルチで運用している局のトーン周波数を検知するスキャンです。	VFOモード メモリーモード	☞P44

◎スキップ機能の付加：上記スキャン(トーンスキャンを除く)には、すべてスキップ(必要のない周波数またはM-CHをスキャンから除外する)指定ができます。
- VFOスキャンのスキップ指定のしかた(☞P38参照)
- メモリースキャンのスキップ指定のしかた(☞P40参照)

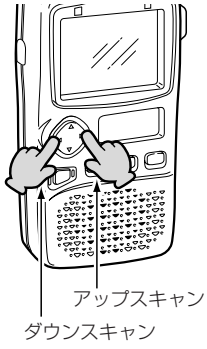
6-2 スキャンの基本的な操作について

1.スタート/ストップ操作

マルチファンクションの[▶]または[◀]を長く押します。
※[▶]はアップスキャン、[◀]はダウンスキャンとなります。

- VFOモードでスタートするとVFO(周波数)スキャンとなり、メモリーモードでスタートするとメモリースキャンになります。

スキャン中に[▶]または[◀]を短く押すと、スキャンを解除します。



2.スキャン中のダイヤル操作

- スキャン中に[DIAL]を右に回すとアップスキャン、左に回すとダウンスキャンになります。
- 信号を受信して一時停止しているときに[DIAL]を回すとスキャンが再スタートします。

3.スケルチの調整

通常スケルチレベルは**"AUTO"**にしていますが、受信信号の強さに応じて、スキャンが一時停止するように調整できます。

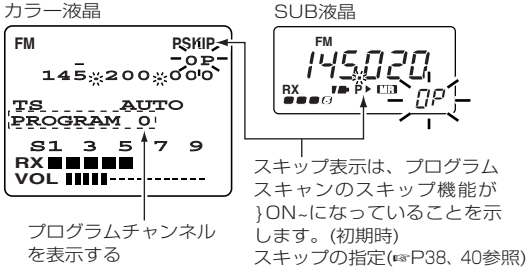
- [SQL]を押しながら[DIAL]を回すと、スケルチレベルの調整ができます。(☞P23)
  スキャン動作中では、調整が終わるとスキャンが再スタートします。

4.信号を受信すると

スキャン中に信号を受信すると、その周波数を約10秒間受信し、一時停止します。
信号受信中は、

- **"RX"**表示、Sメーターが点灯し、デシマルポイントが点滅します。
- 約10秒経過すると、自動的に再スタートしますが、一時停止の時間設定や再スタートの条件は、セットモー(☞P45、48)で変更できます。

●スキャン動作中の表示例



6-3 プログラムスキャン

プログラムスキャンは、あらかじめプログラムチャンネルにスキャンしたい周波数範囲の上限周波数と下限周波数を書き込んでおきます。

プログラムチャンネルはPROGRAM 0(PRoG 0)～PROGRAM 24(PRoG 24)の25組あります。

- プログラムチャンネルには、それぞれに**“A”**と**“B(b)”**のM-CHがありますので、スキャンする上限または下限周波数を設定します。

※A/B(b)のCHに同じ周波数を設定すると、スキャンしません。

※スキャンの範囲は、同一バンド内でも、バンドをまたがって設定してもかまいません。

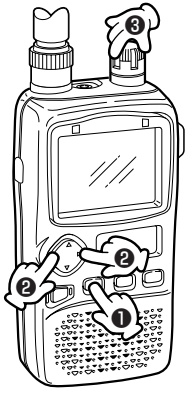
スキャン範囲の初期設定周波数
00A/00B(b): 0.495～2450.000
01A/01B(b): 144.000～146.000
02A/02B(b): 430.000～440.000
03A/03B(b):ブランクCH
〈
24A/24B(b):ブランクCH

〔1〕スキャン範囲の書き込みかた

〔例〕835.000～850.000MHzのスキャン範囲を“04A/04B(b)”に設定する

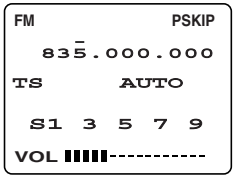
1.835.000MHzを設定

①**[V/M]**を短く押し、VFOモードにします。
②**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**を押し、800Mバンドにします。
③**[DIAL]**を回し、835.000MHzを設定します。



● 835.000MHzを設定

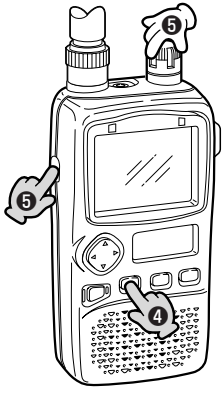
カラー液晶



SUB液晶

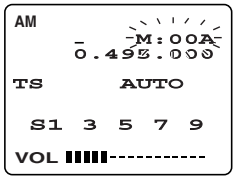
2.プログラムCHにする

④**[V/M]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、M-CH選択状態にします。
⑤**[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回し、プログラムCH**“00A”**にします。
(バンク**“H”**の次の表示)



● プログラムCHの表示

カラー液晶



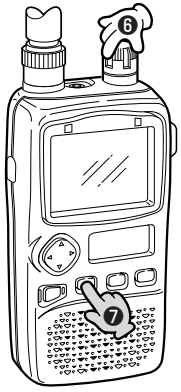
SUB液晶

6 スキャンのしかた

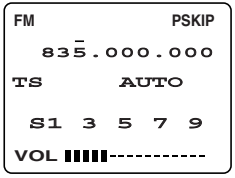
〔1〕スキャン範囲の書き込みかた(つづき)

3.04Aに書き込む

⑥[DIAL]を回し、プログラムチャンネルを“04A”にします。
⑦[V/M]を長く(ピッ、ピピが鳴るまで)押します。
●04Aへの書き込みが完了し、VFOモードに戻ります。



カラー液晶



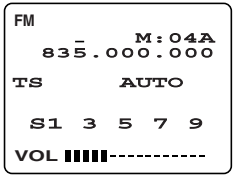
SUB液晶

■左記1～3と同様の操作で、“04B(b)”に850.000MHzを書き込みます。

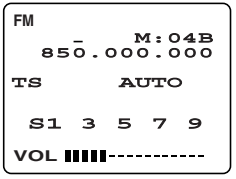
⑧[DIAL]を回し、850.000MHzを設定します。
※[FUNC]を押しながら[DIAL]を使用すると、すばやく設定ができます。
⑨[V/M]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、M-CHの選択状態にします。
⑩[DIAL]を回し、プログラムチャンネルを“04B(b)”にします。
⑪[V/M]を長く(ピッ、ピピが鳴るまで)押します。
●04B(b)への書き込みが完了し、VFOモードに戻ります。

●04A/04B(b)のメモリー内容

カラー液晶



カラー液晶

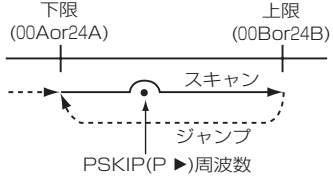


SUB液晶

SUB液晶

以後、PROG 4を選択してスキャンすると、04Aと04B(b)の周波数範囲(835.000～850.000)をスキャンします。

●A/B(b)には、上限/下限周波数のどちらを書き込んでもかまいません。
※A/B(b)のCHに同じ周波数を設定すると、スキャンしません。



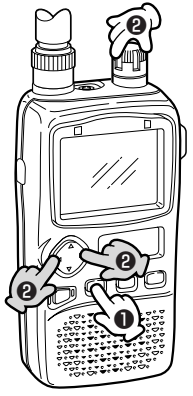
スキャン範囲は25組設定できますので、左記と同様の操作で他のスキャン範囲も設定してください。

6-3 プログラムスキャン(つづき)

〔2〕プログラムスキャンのしかた

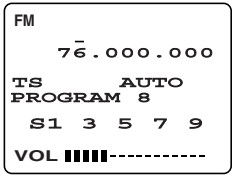
1.スキャン範囲を選択する

①[V/M]を短く押し、VFOモードにします。
②**マルチファンクション**の[◀]または[▶]を押しながら[DIAL]を回します。
●スキャン範囲「PROGRAM 0(PRoG 0)～PROGRAM24(PRoG24)」を選択します。

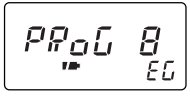


●**スキャン範囲設定状態の表示例**

カラー液晶

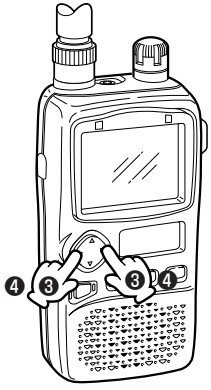


SUB液晶



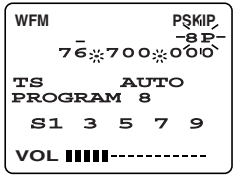
2.スキャンのスタートと解除

③[◀]または[▶]から指を離すと、スキャンがスタートします。
④[◀]または[▶]を短く押すと、スキャンを解除します。
※再度、プログラムスキャンをスタートするときは、**マルチファンクション**の[◀]または[▶]を長く押します。



●**スキャン動作中表示例**

カラー液晶



SUB液晶

■スキャン中にスキャン範囲を切り替えたいときは

①**マルチファンクション**の[◀]または[▶]を押しながら[DIAL]を回します。
●スキャン範囲「PROGRAM 0(PRoG 0)～PROGRAM24(PRoG24)」を選択します。
②[◀]または[▶]から指を離すと、スキャンがスタートします。
③[◀]または[▶]を短く押すと、スキャンを解除します。

※スキャン中のチューニングステップついて
プログラムスキャン中に周波数を切り替えるステップ幅は、VFOモードで設定しているチューニングステップで動作します。

スキャン範囲の選択操作では、**"BAND(bAnd)"**または**"ALL"**の選択もできます。
BAND(bAnd)/ALLについては、次ページをご覧ください。

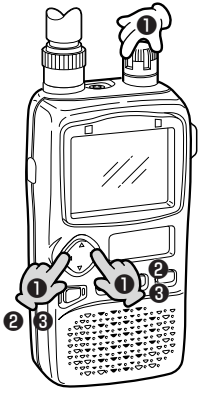
6-4 バンドスキャン/フルスキャンのしかた

バンドスキャンおよびフルスキャンの指定は、プログラムスキャン範囲のあとに表示がありますので、スキャン範囲の選択操作と同じです。

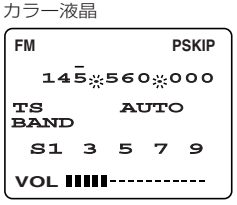
1.バンドスキャンの操作

①**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**を押しながら**[DIAL]**を回し、**“BAND(bAnd)”**を選択します。
②**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**から指を離すと、バンドスキャンがスタートします。
- スキャン前に運用していたバンド内をスキャンします。

③**[◀]**または**[▶]**を短く押すと、スキャンを解除します。
※再度、バンドスキャンをスタートするときは、**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**を長く押します。



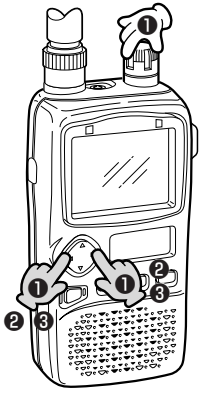
カラー液晶



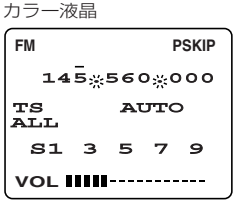
SUB液晶

2.フルスキャンの操作

①**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**を押しながら**[DIAL]**を回し、**“ALL”**を選択します。
②**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**から指を離すと、フルスキャンがスタートします。
0.495～2450.075MHz間をスキャンします。
③**[◀]**または**[▶]**を短く押すと、スキャンを解除します。
※再度、フルスキャンをスタートするときは、**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**を長く押します。



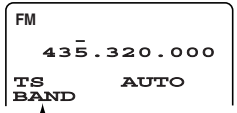
カラー液晶



SUB液晶

●バンドスキャンの表示

カラー液晶



}**BAND**~または}**ALL**~を選択する

SUB液晶

}**bAnd**~または}**ALL**~を選択する

6-5 VFO(周波数)スキャンのスキップ指定のしかた

VFO(周波数)スキャン中、信号を受信して一時停止したときに、その周波数をスキャンの対象外にしたい場合、周波数スキップの指定ができます。

"SKIP(P ▶)"を指定してメモリーに書き込むと、VFOスキャンのときに、そのM-CHに書き込まれた周波数をスキップ(スキャンしないで飛び越す)します。

周波数スキップを指定して、**"PSKIP(P ▶)"**を**"ON"**に設定しておきます。
(初期時は**"ON"**)

スキップ周波数を書き込むときは、**"PSKIP(P ▶)"**が**"ON"**でも**"OFF"**でもかまいません。

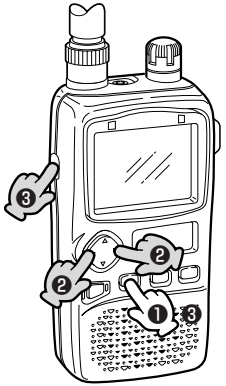
1.スキップ周波数の指定(書き込み)のしかた

①**[V/M]**を短く押し、VFOモードにします。
②**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**を長く押します。
VFO(周波数)スキャンがスタートします。

■信号を受信して一時停止したとき、その周波数にスキップ指定をする場合は、

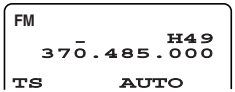
③**[FUNC]**を押しながら**[V/M(SKIP)]**を長く(ピッ、ピピが鳴るまで)押します。
これでスキップ周波数を、M-CHの最上位のなにも記憶していないブランクCH(初期時はバンク HのCH-49)に書き込みます。

- 書き込みと同時にスキャンがスタートしますので、連続して書き込みができます。ブランクCHの上位から下位へ順に書き込みます。(バンクが満杯になると、次バンクへ移ります)



●書き込み中の表示例

カラー液晶



SUB液晶

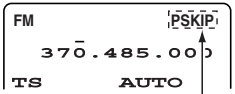
※初期時はバンクH、CH-49に書き込み後、スキャンを再スタートする

2.PSKIPの"ON/OFF"

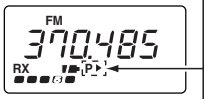
左記の操作でスキップ周波数を登録した後、指定した周波数をスキャン時にスキップするときは、下記の操作を行ってください
初期時は**"ON"**にしています。
①VFOモードにします。
②**[FUNC]**を押しながら**[V/M(SKIP)]**を押します。

- 一回押すごとに**"PSKIP(P ▶)"**が**"ON/OFF"**します。

カラー液晶



SUB液晶



[FUNC]+**[V/M(SKIP)]**を押すごとに}**ON/OFF**~する

"PSKIP(P ▶)"を**"ON"**にしてVFOスキャンをすると、左記の操作で登録した周波数をスキップします。

6-6 メモリー〔バンク/フル〕スキャンのしかた

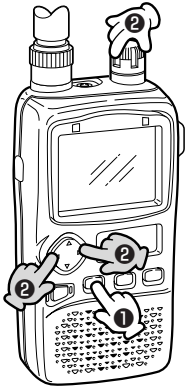
メモリースキャンとは、M-CHを順次切り替えて、信号を探し出すスキャンです。

メモリースキャンには、同一バンク内をスキャンする**バンクスキャン**と、バンクに関係なくすべてのM-CHをスキャンする**フルスキャン**があります。

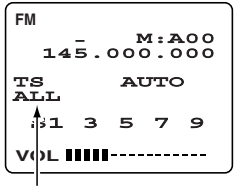
バンクスキャン/フルスキャンを切り替えるには

1.バンク/フルを選択する

①**[V/M]**を短く押し、メモリーモードにします。
②**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**を押しながら**[DIAL]**を回し、**“BANK(bAnk)”**にするとバンクスキャンができ、**“ALL”**にするとフルスキャンができます。



カラー液晶



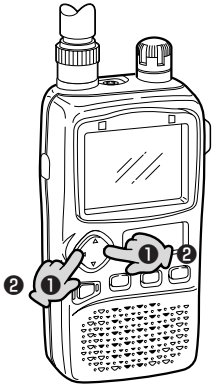
}**ALL**~または}**BANK**~を選択する

SUB液晶

}**ALL**~または}**bAnk**~を選択する

2.スタート/ストップ操作

①**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**を長く押すと、スキャンがスタートします。
②**[◀]**または**[▶]**を短く押すと、スキャンを解除します。



※バンクスキャンは、スキャンのスタート前に運用していたバンクになります。

6-7 メモリースキャンのスキップ指定のしかた

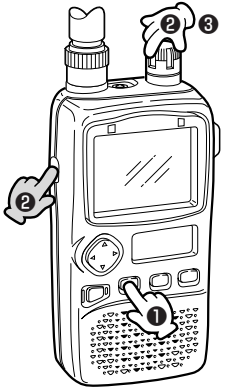
メモリースキャンから除外するM-CHに、スキップ指定をすると、指定したM-CHをスキップすることができます。

スキップ指定には2種類あり、

- **“SKIP(▶)”**を指定すると、メモリースキャンのときに、そのM-CHをスキップします。
- **“PSKIP(P ▶)”**を指定すると、メモリースキャンでもVFOスキャンでも、指定のM-CHの周波数をスキップします。

1.M-CHを呼び出す

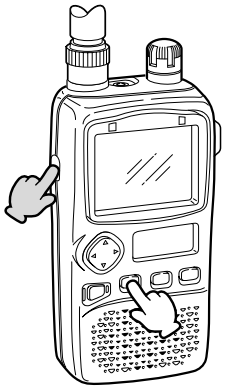
①[V/M]を短く押し、メモリーモードにします。
②[FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、メモリーバンクを選択します。
③[DIAL]を回して、M-CHを選択します。

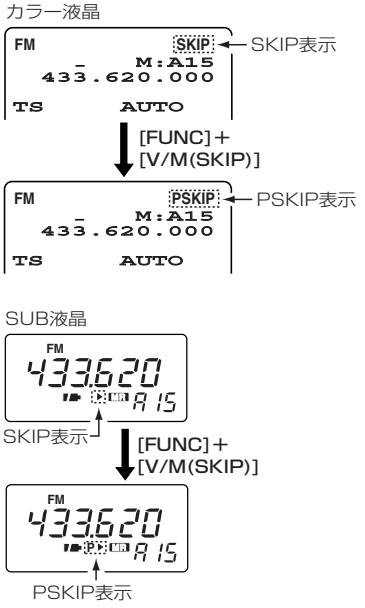


2.SKIP/PSKIPを指定する

[FUNC]を押しながら[V/M(SKIP)]を押します。

- 1回押すごとに、**“SKIP”(▶表示)→“PSKIP”(P ▶表示)→“OFF”**(表示なし)と表示が切り替わります。





3.スキップの解除

上記の操作をして**“SKIP(▶)”**または**“PSKIP(P ▶)”**を消灯させてください。

6-8 プライオリティスキャンのしかた

■プライオリティスキャンについて

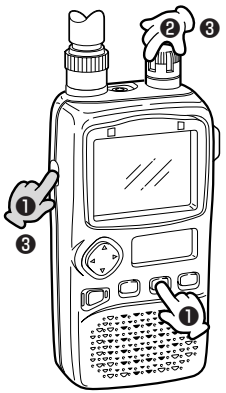
プライオリティスキャンは、通常の受信をしながら特定周波数の信号の有無を知るためのスキャンです。
プライオリティスキャンには、下記の種類があります。

種　類	動　作　の　内　容
VFO周波数とM-CH	VFO周波数を受信しながら、指定M-CHの信号の有無をワッチ(監視)します。 (☞P42)
VFOスキャンとM-CH	VFOスキャンしながら、指定M-CHの信号の有無をワッチ(監視)します。 (☞P42)
VFO周波数とメモリースキャン	VFO周波数を受信しながら、スキャン中のM-CHを順次をワッチ(監視)します。 (☞P43)
VFOスキャンとメモリースキャン	VFO/メモリーの両スキャンで信号の有無をワッチ(監視)します。 (☞P43)

◎ワッチする周波数/M-CHは、約5秒ごとに1回(0.5秒以内)でワッチし、信号を受信すると他のスキャンと同様に一時停止します。
ワッチする周波数/M-CHを、プライオリティCH(チャンネル)といいます。
◎ベル選択時はベル音が鳴ります。
※一時停止の時間および再スタートの条件は、他のスキャンと同じです。(セットモードの設定条件)

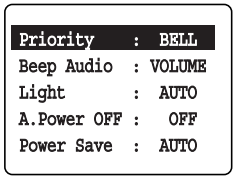
◆プライオリティベル機能について

プライオリティベル機能は、プライオリティCHで信号を受信したとき、**“ピロピロピ”**というベル音を鳴らし、ベルマークが点滅します。
①**[FUNC]**を押しながら**[MODE]**を短く押し、セットモードにします。
②**[DIAL]**を回して、**“Priority(PRIo)”**項目にします。
③**[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回して(**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**で同様に設定可能)、**“BELL(bELL)”**を選択します。
※プライオリティスキャンのスタート時に、ベルの**“ON/OFF”**が選択できます。

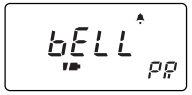


● セットモードで“BELL (bELL)”選択したときの表示

カラー液晶



SUB液晶

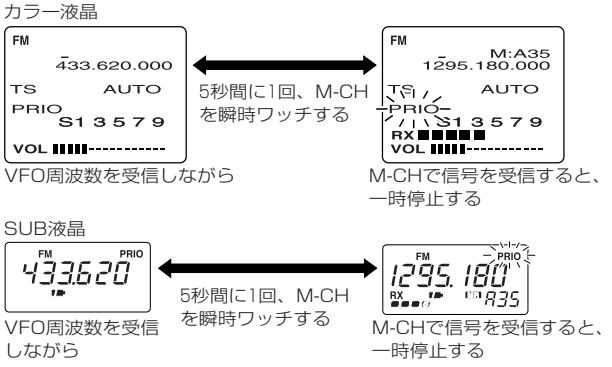


〔1〕VFO周波数受信中にM-CHをワッチする

VFO周波数を聞きながら5秒に1回、特定のM-CHを瞬時ワッチします。

①VFO周波数を設定します。
②ワッチしたいM-CHを設定します。
●①と②の操作はどちらが先でもかまいません。
③**[FUNC]**を押しながら**[MODE]**を短く押し、セットモードにします。
④**[DIAL]**を回して、**“Priority(PRIo)”**項目にします。
⑤**[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回して(**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**で同様に設定可能)、**“ON(on)”**か**“BELL(bELL)”**にします。
⑥**[MODE]**を押します。
プライオリティスキャンがスタートします。
⑦**[V/M]**を押すと、プライオリティスキャンを解除します。

◎動作の概略

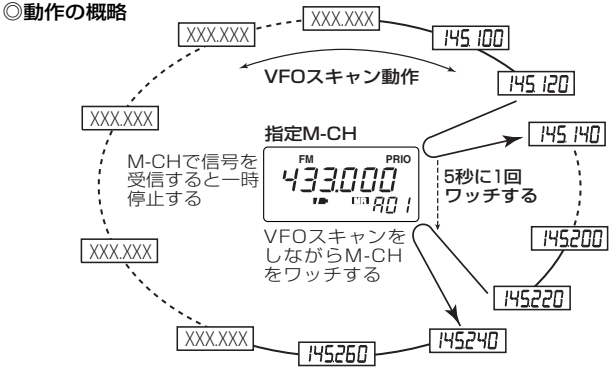


〔2〕VFOスキャン中にM-CHをワッチする

VFOスキャンをしながら5秒に1回、特定のM-CHを瞬時ワッチします。

①メモリーモードでワッチしたいM-CHを設定します。
②VFOモードにします。
③**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**を長く押し、VFOスキャンをスタートさせます。
④**[FUNC]**を押しながら**[MODE]**を短く押し、セットモードにします。
⑤**[DIAL]**を回して、**“Priority(PRIo)”**項目にします。
⑥**[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回して(**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**で同様に設定可能)、**“ON(on)”**か**“BELL(bELL)”**にします。
⑦**[MODE]**を押します。
プライオリティスキャンがスタートします。
⑧**[V/M]**を押すと、プライオリティスキャンを解除します。

◎動作の概略

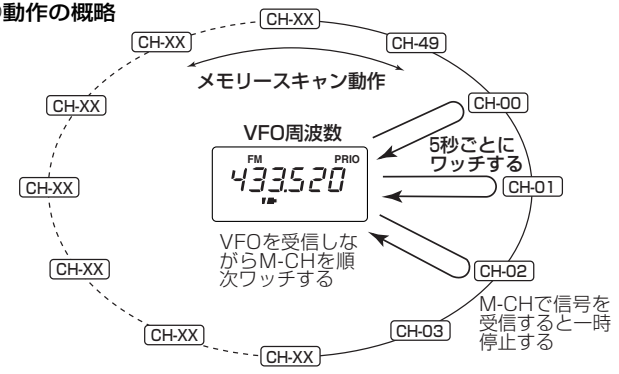


〔3〕VFO周波数受信中にM-CHを順次ワッチする

VFO周波数を受信しながら、5秒に1回M-CHを順次切り替えてワッチします。

①VFOモードで受信する周波数を設定します。
②メモリーモードにします。
③**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**を長く押し、メモリースキャンをスタートさせます。
④**[FUNC]**を押しながら**[MODE]**を短く押し、セットモードにします。
⑤**[DIAL]**を回して、**“Priority(PRIo)”**項目にします。
⑥**[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回して(**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**で同様に設定可能)、**“ON(on)”**か**“BELL(bELL)”**にします。
⑦**[MODE]**を押します。
プライオリティスキャンがスタートします。
⑧**[V/M]**を押すと、プライオリティスキャンを解除します。

◎動作の概略



〔4〕VFO/メモリー両スキャンでワッチする

VFOスキャン中にメモリーチャンネルを順次スキャンしてワッチします。

①メモリーモードにします。
②**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**を長く押し、メモリースキャンをスタートさせます。
[ご注意]必ずメモリースキャンを先にスタートさせてください。VFOスキャンを先にスタートさせると、両スキャンは動作しません。
③**[FUNC]**を押しながら**[MODE]**を短く押し、セットモードにします。
④**[DIAL]**を回して、**“Priority(PRIo)”**項目にします。
⑤**[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回して(**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**で同様に設定可能)、**“ON(on)”**か**“BELL(bELL)”**にします。
⑥**[MODE]**を押します。
プライオリティスキャンがスタートします。
⑦**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**を長く押し、VFOスキャンをスタートさせます。
●両スキャンによるプライオリティになります。
◎両スキャンがスタートすると、VFOスキャンをしながら、5秒間に1回M-CHを順次切り替えてワッチします。
※VFO/M-CHのどちらで信号を受信しても、一時停止になります。
⑧**[V/M]**を押すと、プライオリティスキャンを解除します。

6-9 トーンスキャンのしかた

特定の周波数で運用されているトーンスケルチ通信の、トーン周波数を検知するスキャンです。

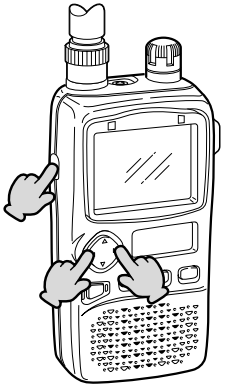
- トーンスキャンは、VFO/メモリーモードに関係なく動作します。
- スキャン中に[DIAL]を回すと、回した方向でアップスキャンとダウンスキャンを切り替えます。

トーンスケルチの機能と使いかたは、59ページをご覧ください。

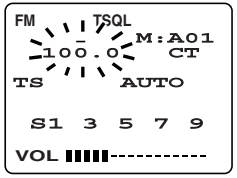
1.スタート操作

[FUNC]を押しながら**マルチファンクション**の[◀]または[▶]を長く(ピッ、ピーが鳴るまで)押します。

- トーン周波数を表示し、スキャンを開始します。
- スキャン中に、スケルチが開いているときはゆっくりと、スケルチが閉じているときは速くスキャンします。
- 一致したトーン周波数を検知すると、スキャンが約10秒間一時停止し、トーン周波数を自動的に書き替え(トーンスケルチ用のトーン周波数、レピータアクセス用トーン周波数)たあと、スキャンを再スタートします。



カラー液晶



メモリーモード時の
トーンスキャン表示

SUB液晶

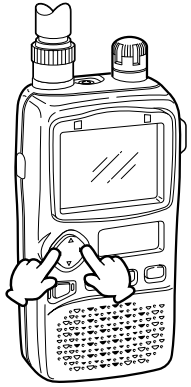
VFOモード時の
トーンスキャン表示

※メモリーモードでトーンスキャンしたとき、一時的に記憶しますが、M-CHのトーンは書き替えません。

2.ストップ操作

マルチファンクションの[◀]または[▶]を押します。

- スキャンを解除し、周波数表示に戻ります。



※スキャン前のトーン(トーンスケルチ運用☞P59で設定したトーン)を再度使用するときは、セットモードで設定しなおしてください。

7 セットモードの設定方法

7-1セットモードの項目について

セットモードは、各種機能を使いやすくするために、運用条件を変更するモードです。

- セットモードにはVFO/メモリーモード以外のチャンネル(M-CH)表示モード、およびTV-CH表示モードからも入れますが、それぞれの運用モードに関係のない項目は表示しません。
- カラー液晶のバンドスコープ画面選択時は、セットモードに入ることはできません。

※カラー液晶で映像を表示する〔テレビ(TV)、FM-TV、AM-TV〕画面を選択したときのみ、コントラストとブライトの設定はSUB液晶に表示されます。

右記の項目表示は、初期時[DIAL]を右に回したときの順序です。

1. 初期項目

本機のセットモードは、下記のようにカラー液晶とSUB液晶では、セット項目の表記が異なりますのでご注意ください。

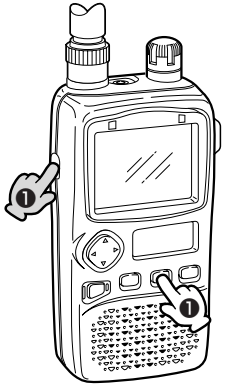
カラー液晶 セットガイド(初期値)	SUB液晶 セットガイド(初期値)		セット項目	参照
Tone Squelch: OFF	tSQL	oFF	トーンスケル運用モードの設定	☞P47
Tone Freq. : 88.5	tonE	88.5	トーン周波数の設定	☞P47
Duplex : OFF	dUP	oFF	デュプレックス運用モードの設定	☞P48
Offset Freq.: 0.000	oFFSEt	0.000	オフセット周波数の設定	☞P48
Scan Resume : 2SEC	RESUmE	2SEC	スキャン再スタートタイマーの設定	☞P48
Pause Scan : 10SEC	PAUSE	10SEC	スキャン一時停止タイマーの設定	☞P48
Priority : OFF	PRIo	oFF	プライオリティスキャンの設定	☞P49
Beep Audio : VOLUME	bEEP	VoLUmE	ビープ音(操作音)の設定	☞P49
Light : AUTO	LIGHt	AUto	SUB液晶のバックライト設定	☞P49
A.Power OFF : OFF	AP oFF	oFF	オートパワーオフ機能の設定	☞P49
Power Save : AUTO	P SAVE	AUto	パワーセーブ機能の設定	☞P50
Monitor : PUSH	mon I	PUSH	モニター(SQL)ホールド機能の設定	☞P50
Dial Speedup: ON	SPEEd	on	ダイヤルスピード機能の設定	☞P50
Key Lock : NORMAL	LoCk	noRmAL	キーロック機能の設定	☞P50
Display : AUTO	dISP	AUto	カラー液晶の表示設定	☞P51
Contrast : 50%	ContRA ※	50	カラー液晶のコントラスト設定	☞P51
Bright : 50%	bRIGHt ※	50	カラー液晶のブライト設定	☞P51
Back Color : 4			カラー液晶のバックカラー設定	☞P51

7-2 セットモードの設定

1.セットモードにする

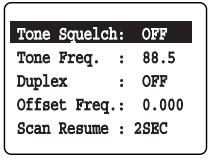
①[FUNC]を押しながら[MODE(SET)]を短く押します。
- セットモードになり、最初の項目を表示します。

※前回選択した項目を表示します。

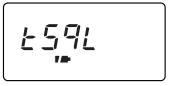


●セットモードの表示例

カラー液晶

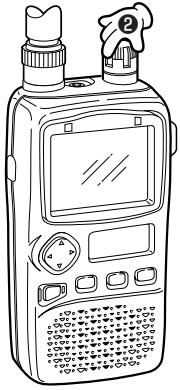


SUB液晶



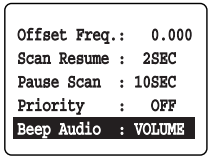
2.設定項目にする

②[DIAL]を回し、設定項目を選択します。
- SUB液晶の表示は約1秒後、設定内容の表示に変わります。



●項目表示例

カラー液晶

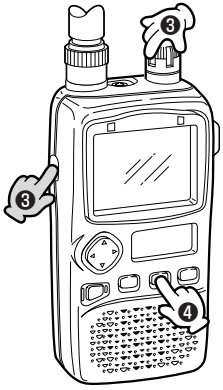


SUB液晶

3.設定内容を選択する

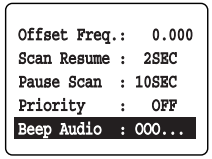
③[FUNC]を押しながら[DIAL]を回し、設定内容を選択します。

※**マルチファンクション**の[◀]または[▶]でも選択できます。

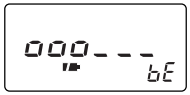


●設定内容の表示例

カラー液晶



SUB液晶



4.セットモードの解除

④[MODE(SET)]を押します。
- 設定状態を保持して、周波数表示に戻ります。

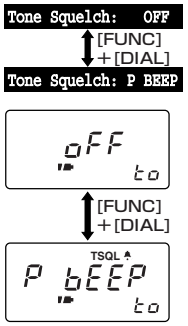
7-3 設定項目の詳細について

設定表示例の上側が初期設定値です。

1.トーンスケルチ運用モードの設定

トーンスケルチまたは、ポケットビープの運用モードを設定する項目です。

- **oFF** ：トーンスケルチを使用しない
- **TSQL (tSqL)** ：トーンスケルチ運用モードにする
- **P BEEP (P bEEP)**：ポケットビープ運用モードにする

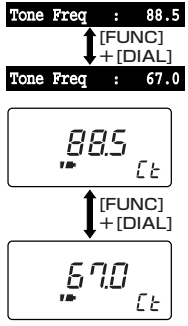


運用の参照ページ(☞P59)

2.トーン周波数の設定

トーンスケルチ通信を受信するための、トーン周波数を設定する項目です。ポケットビープを使用する場合も同じです。

- 67.0Hz～254.1Hzの50波の中から選択する
  (トーン周波数→右表参照)
  バンドごとに設定ができます。



運用の参照ページ(☞P60)

■トーン周波数一覧表

単位：Hz

	67.0	94.8	131.8	171.3	203.5
	69.3	97.4	136.5	173.8	206.5
	71.9	100.0	141.3	177.3	210.7
	74.4	103.5	146.2	179.9	218.1
	77.0	107.2	151.4	183.5	225.7
	79.7	110.9	156.7	186.2	229.1
	82.5	114.8	159.8	189.9	233.6
	85.4	118.8	162.2	192.8	241.8
★	88.5	123.0	165.5	196.6	250.3
	91.5	127.3	167.9	199.5	254.1

◎★印は初期設定値です。
なお、アマチュア無線のFM標準レピーターには、88.5Hzが使用されています。

◎トーンスキャン時は、上記トーン周波数が使用されている信号を検出します。

設定表示例の上側が初期設定値です。

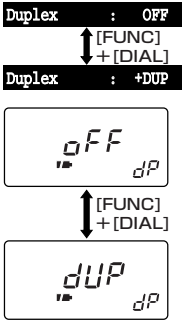
3.デュプレックス運用モードの設定

送信と受信とで、違った周波数を使用するデュプレックスモードで運用中の通信を、受信するための項目です。

- OFF (oFF)　：デュプレックスを使用しない
- －DUP (-dUP)：設定周波数とオフセット分低くした周波数が受信できる
- ＋DUP (dUP)：設定周波数とオフセット分高くした周波数が受信できる

※バンドごとに設定ができます。

運用の参照ページ(☞P62)



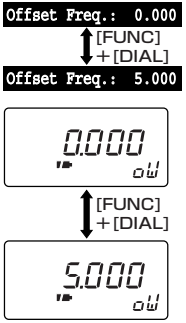
4.オフセット周波数の設定

デュプレックス運用モードでの、オフセット周波数を設定する項目です。デュプレックス運用している2局間の周波数差を設定します。
オフセット周波数とは、2局間の通信で受信周波数から送信周波数へシフトする周波数差をいいます。バンドごとに設定ができます。

- 0～159.995MHzの範囲で設定できる

※1Mバンドでは設定できません。
※設定中にチューニングステップを変えたいときは、**[MODE]**を押しながら**[DIAL]**を回すとTSを変更できます。

運用の参照ページ(☞P62)

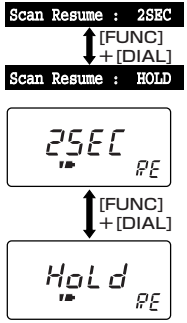


5.スキャン再スタートタイマーの設定

スキャンが一時停止中に信号がなくなったときの、再スタートタイマー(時間)を設定する項目です。

- 0　：信号がなくなると同時に再スタートする
- 1～5　：信号がなくなると1～5秒の各設定時間後再スタートする
- HOLD (HoLd)：信号がなくなっても一時停止状態を保持する(スタートはダイアル操作)

運用の参照ページ(☞P33)

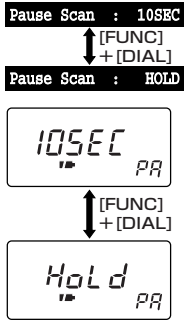


6.スキャン一時停止タイマーの設定

スキャン中に信号を受信すると、スキャンが一時停止します。
設定時間だけ信号受信を続け、設定時間になると再スタートします。

- 2～20　：2～20秒のタイマーが2秒毎に設定できる。なお、停止中に信号がなくなると、前項スタートタイマーの条件で再スタートする
- HOLD (HoLd)：信号受信中は一時停止を続け、信号がなくなると再スタートする

運用の参照ページ(☞P33)



7 セットモードの設定方法

7-3 設定項目の詳細について(つづき)

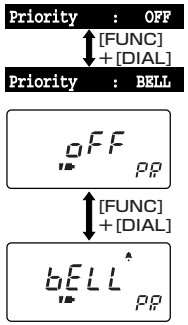
設定表示例の上側が初期設定値です。

7.プライオリティスキャンの設定

プライオリティスキャンの“ON/OFF”およびプライオリティベルを選択する項目です。

- **OFF (oFF)** ：動作しない
- **ON (on)** ：プライオリティスキャンにする
- **BELL (bELL)** ：プライオリティチャンネルで信号を受信すると、ベル音を鳴らし、ベルマークの点滅で受信を知らせる

運用の参照ページ(☞P41)



8.ビープ音(操作音)の設定

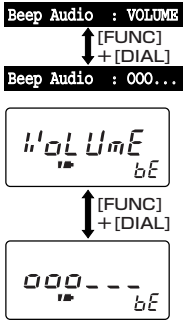
キー操作が正しく行われたかどうかを知らせるビープ音の音量を設定する項目です。

- **VOLUME (VoLUmE)** ：音量に比例したビープ音を鳴らす
- **.....(------)** ：音量に関係なく、個別にビープ音の音量を調整する

※初期時は**VOLUME(VoLUmE)**に設定、**[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回すと音量調整ができます。

※ポケットビープ(☞P59)やプライオリティベル(☞P41)も、このビープ音の音量調整に連動しています。

運用の参照ページ(☞P64)

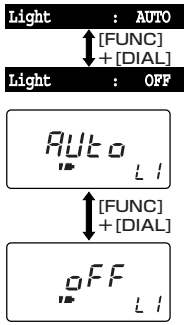


9.SUB液晶のバックライト設定

キー操作をすると、自動的にディスプレイのバックライトが約5秒間点灯します。

- **AUTO (AUto)** ：操作時に自動点灯
  なお、5秒間操作しない状態が続くと消灯する
- **ON (on)** ：常時点灯する
- **OFF (oFF)** ：点灯しない

運用の参照ページ(☞P64)



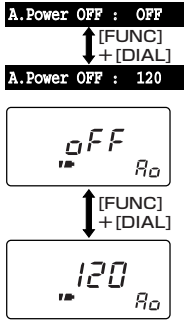
10.オートパワーオフ機能の設定

自動的に電源を“OFF”にするオートパワーオフ機能を設定する項目です。

待ち受け状態(受信やキー操作のない状態)が一定時間(下記の設定時間)続くと、自動的に電源を切ります。

- **OFF (oFF)** ：オートパワーオフ機能が動作しない
- **30** ：30分後に電源を切る
- **60** ：60分後に電源を切る
- **90** ：90分後に電源を切る
- **120** ：120分後に電源を切る

運用の参照ページ(☞P65)

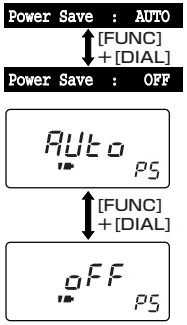


設定表示例の上側が初期設定値です。

11.パワーセーブ機能の設定

電池の消耗を防ぐためのパワーセーブ機能を“ON/OFF”する項目です。

- **AUTO (AUto)**：待ち受け状態(受信やキー操作のない状態)が一定時間続くと、自動的にパワーセーブが動作する
- **OFF (oFF)**：パワーセーブが動作しない

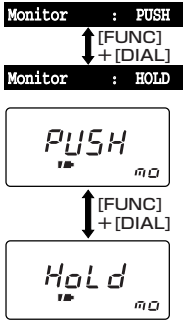


運用の参照ページ(☞P65)

12.モニター〔SQL〕ホールド機能の設定

[SQL]の機能(スケルチを開いて受信モニターをする)が、キーを押している間動作させるか、1回押すごとに“ON/OFF”させるかを設定する項目です。

- **PUSH**：押している間だけスケルチを開く
- **HOLD (HoLd)**：1回押すとスケルチを**“ON”**にし、もう一度押すことにより**“OFF”**にする

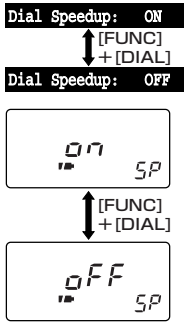


運用の参照ページ(☞P23)

13.ダイヤルスピード機能の設定

[DIAL]を速く回したときだけ、更にスピードアップするダイヤルスピード機能を選択する項目です。
※周波数を大きく変えたり、M-CHの切り替えがすばやくできます。

- **ON (on)**：スピードアップする
- **OFF (oFF)**：**[DIAL]**を回す速度に合わせる

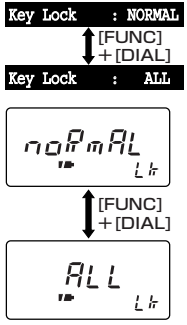


運用の参照ページ(☞P64)

14.キーロック機能の設定

[DIAL]およびキーの操作を無効にするキーロック機能を設定する項目です。
不用意に**[DIAL]**やキーに触れても、周波数や運用状態が変わらないようにする機能です。

- **NORMAL (noRmAL)**：VOL/SQL以外をロックする
- **NO SQL (no SqL)**：SQL以外をロックする
- **NO VOL (no VoL)**：VOL以外をロックする
- **ALL**：すべてのキーをロックする



運用の参照ページ(☞P64)

7 セットモードの設定方法

7-3 設定項目の詳細について(つづき)

設定表示例の上側が初期設定値です。

15.カラー液晶の表示設定

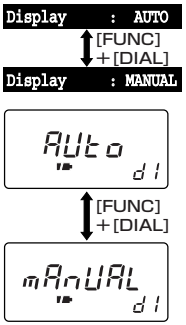
カラー液晶の表示条件を設定する項目です。

- AUTO (AUto)　：電源電圧を監視し、外部電源使用時はカラー液晶を表示させる

※外部電源を接続していないときは、カラー液晶の表示は**“OFF”**となる

- MANUAL (mAnUAL)：**[FUNC]**を押しながら**マルチファンクション**の**[▲]**または**[▼]**を長く押すと、カラー液晶表示を**“ON/OFF”**する

運用の参照ページ(☞P17)



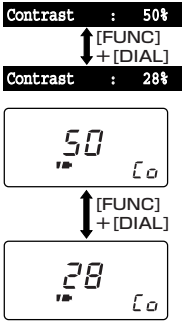
16.カラー液晶のコントラスト設定

カラー液晶のコントラスト(輝度)を設定する項目です。

- 0%(暗い)～100%(明るい)の範囲で調整できる

※映像を表示する画面を選択したときのみ、SUB液晶で表示する

運用の参照ページ(☞P17)



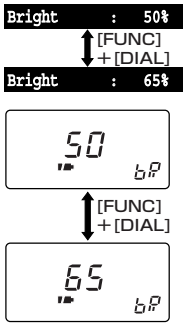
17.カラー液晶のブライト設定

カラー液晶のブライトを調整する項目です。

- 0%(暗い)～100%(明るい)の範囲で調整できる

※映像を表示する画面を選択したときのみ、SUB液晶で表示する

運用の参照ページ(☞P18)



18.カラー液晶のバックカラー設定

カラー液晶のバックカラーを設定する項目です。

- 0(黒)⇒1(桃色)⇒2(緑)⇒3(橙色)⇒4(青)⇒5(紫)⇒6(黄緑)⇒7(白)の中から選択できます。

運用の参照ページ☞(P18)

8-1 テレビ(TV)放送を受信する

カラー液晶の搭載により、各種映像電波を受信できます。
TVモードでは、テレビ放送、アマチュア無線または映像トランスミッターなどから送信される映像電波を受信することができます。

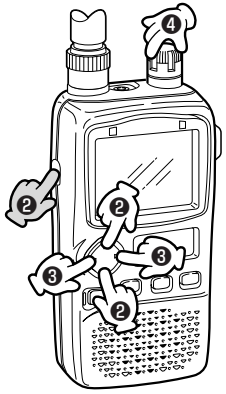
テレビ放送は、各地区により受信できる局が限られています。

- 本機は、受信できる局だけを自動的に登録するTVバンドのスキップスキャン機能があります。(☞P53)

セットモードの「Display(dISP)」項目で「AUTO(AUto)」を選択し、外部電源が接続されている場合に電源を**"ON"**にするとカラー液晶とSUB液晶によるデュアル表示となります。

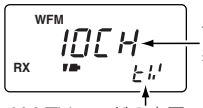
1.受信のしかた

①カラー液晶を表示させます。(☞P17参照)
②**[FUNC]**を押しながら**マルチファンクション**の**[▲]**または**[▼]**を短く押し、標準画面または多機能画面を選択します。
※サーチ画面、バンドスコープ画面選択時はTVバンドの選択はできません。
③**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**を短く押して、TVバンドを選択します。
④**[DIAL]**を回し、TV-CHを選択します。
(初期時はVHF帯の1～12CHのみ)
※**[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回すと、全CH(1～62CH)を選択することができます。



カラー液晶

SUB液晶

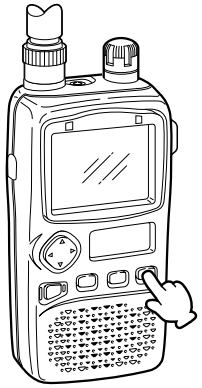


TV-CHを表示する

AM-TVモードの表示

■音声をミュート(消去)するときは

[SQL]を押すごとに、音声ミュート機能が**"ON/OFF"**します。



【ご注意】

- 1MHzバンド、5MHzバンドからは、カラー液晶を表示させることはできません。
- サーチ画面、バンドスコープ画面を選択時、**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**によるTVバンドの選択はできません。
- TVバンド選択時、スケルチレベルの変更は可能ですが、動作はしません。

8-1 テレビ(TV)放送を受信する(つづき)

2.受信できないTV-CHをスキップする

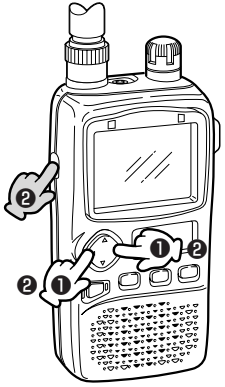
受信が可能なCHだけを自動的に登録しますので、以後の操作が簡単になります。

①**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**を短く押して、TVバンドを選択します。

②**[FUNC]**を押しながら**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**を長く押すと、1CHから62CHまでを1回だけスキャンして止まります。

※このスキャンは受信信号で止まらずに、受信できないCHを検出し、自動的にスキップ登録します。

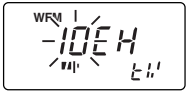
◆以後、**[DIAL]**を回すと、受信ができるCHだけを表示します。(13～62CHの受信できる局も表示します。)
ただし、**[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回したときは、すべてのCHを表示することができます。



カラー液晶

スキャン中カラー液晶は消灯する

SUB液晶

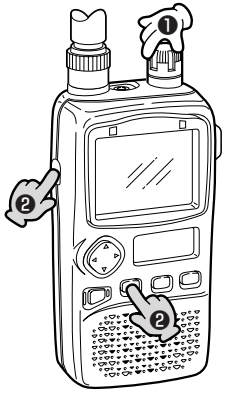


1CHから62CHまで
1回だけスキャンする

■キー操作でスキップを指定するには

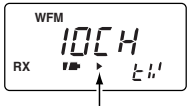
①**[DIAL]**を回し、スキップを指定するCHを選択します。

②**[FUNC]**を押しながら**[V/M(SKIP)]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
スキップ表示**"▶"**が点灯し、スキップCHが指定されます。
押すごとに**"ON/OFF"**します。



カラー液晶

SUB液晶



スキップ表示

8-2 その他の映像電波(AM-TV/FM-TV)を受信する

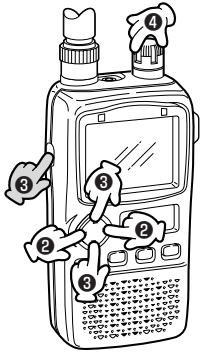
アマチュア無線または映像トランスミッターなどから送信される映像電波(FM-TV/AM-TV)を受信することができます。

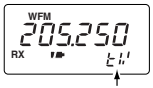
1.受信のしかた

①カラー液晶を表示させます。(☞P17参照)
②**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**を短く押し、運用するバンドを選択します。
- **FM-TV**(テレビ)を受信するときは、1200Mバンド(900MHz～1300MHz：映像周波数)、2400Mバンド(2250MHz～2450.095MHz：映像周波数)を選択します。
- **AM-TV**(テレビ)を受信するときは、50Mバンド/FMバンド/AIRバンド/VHFバンド/300Mバンド/UHFバンド/800Mバンド/1200Mバンド/2400Mバンドを選択します。

③**[FUNC]**を押しながら**マルチファンクション**の**[▲]**または**[▼]**を短く押し、FM-TVまたはAM-TV画面を選択します。(☞P12参照)
※このとき、周波数表示はSUB液晶に移り、**"4.5MHz"**低い映像周波数になります。
【注】 テレビ(TV)画面選択時は、表示画面の選択はできません。(☞P19参照)
④**[DIAL]**を回して、映像周波数を設定します。

●テレビの10CHを受信したときの表示例





■周波数設定時のご注意
カラー液晶を表示していないときは音声周波数、カラー液晶を表示しているときは映像周波数に合わせてください。

〔例〕テレビの"10CH"を受信する場合
- 音声周波数：209.75MHz
- 映像周波数：205.25MHz

※TV-CHの周波数リストは(☞P74)を参照してください。

■カラー液晶を表示していないときは
[FUNC]を押しながら**マルチファンクション**の**[▲]**または**[▼]**を短く押すごとに、**"FTV"→"TV"→"OFF"**と切り替わります。

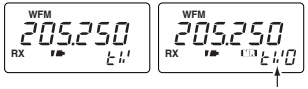
2.AM-TV用M-CHに書き込む

左記で設定した内容をAM-TV用M-CHに書き込むことができます。
①**[V/M]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、M-CH選択状態にします。
②**[DIAL]**を回し、M-CH(tV0～tV9)を選択します。
このとき**"VF"**を選ぶとVFOに書き込みます。
③**[V/M]**を約1秒(ピッ、ピピと鳴るまで)押し、M-CHに書き込みます。
※書き込み後も押し続けると、オートインクリメント動作になります。(☞P27参照)
④書き込み後、書き込む前の表示に戻ります。

■M-CHを呼び出すときは、上記①、②を操作してください。

■M-CHの内容を消去すときは、上記①、②でM-CHを選択後、**[FUNC]**を押しながら**[V/M]**を約1秒(ピッ、ピピと鳴るまで)押します。

●"tV0"に書き込んだときの表示例



8-2 その他の映像電波(AM-TV/FM-TV)を受信する(つづき)

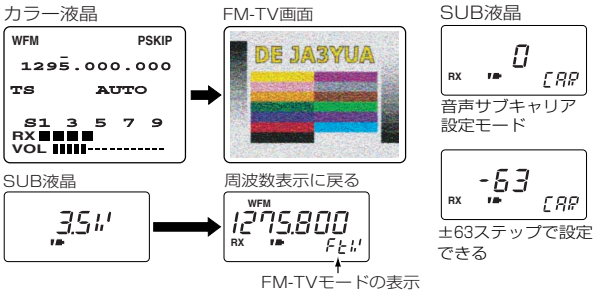
【ご注意】
アマチュアテレビの受信は、ビート妨害を受けることが多く、また付属のアンテナやグランドプレーン(GP)アンテナなどでは反射波や偏波面の影響を受けやすく、ゴーストとなってあらわれます。
また、アマチュアテレビの受信は、相当に強い信号を受信しないと、良好な画像が得られません。
アンテナには、指向性アンテナ(八木アンテナなど)のご使用をお勧めします。

【ご注意】
テレビ(TV)画面選択時は、表示画面の選択はできません。(☞P19参照)

■映像信号の極性反転について
FM-TVモードでは、映像信号の極性反転機能に対応しています。
[MODE]を押すごとに、映像信号の極性を切り替えます。

〔例〕アマチュアテレビ(ATV)を受信する

①カラー液晶を表示させます。(☞P17参照)
②**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**を短く押し、1200Mバンドまたは2400Mバンドを選択します。
※なお、受信できる周波数範囲は、900MHz～1300MHz、2250MHz～2450.095MHz(映像周波数)となっています。
③**[FUNC]**を押しながら**マルチファンクション**の**[▲]**または**[▼]**を短く押し、FM-TV画面を選択します。(☞P12参照)
※このとき、周波数表示はSUB液晶に移り、**"4.5MHz"**低い映像周波数になります。
④**[DIAL]**を回して、上記指定の映像周波数を設定します。
⑤**[FUNC]**を押しながら**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**を長く押して、音声サブキャリア設定モードします。
⑥**[DIAL]**を回して、音声サブキャリアを設定します。
映像を受信し、音声が聞こえるように音声サブキャリアを設定(±63ステップ)します。
⑦**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**を押すと、音声サブキャリア設定モードを解除します。



■FM-TV用M-CHに書き込む
左記で設定した内容をFM-TV用M-CHに書き込むことができます。
①**[V/M]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、M-CH選択状態にします。
②**[DIAL]**を回し、M-CH(t00～t49)を選択します。
このとき**"VF"**を選ぶとVFOに書き込みます。
③**[V/M]**を約1秒(ピッ、ピピと鳴るまで)押し、M-CHに書き込みます。
※書き込み後も押し続けると、オートインクリメント動作になります。(☞P27参照)
④書き込み後、書き込む前の表示に戻ります。

■M-CHを呼び出すときは、上記①、②を操作してください。

■M-CHの内容を消去すときは、上記①、②でM-CHを選択後、**[FUNC]**を押しながら**[V/M]**を約1秒(ピッ、ピピと鳴るまで)押します。

● "t00"に書き込んだときの表示例

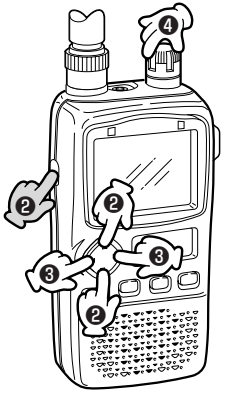
8-3 サーチ(方向探知)機能の使いかた

サーチ(方向探知)とは、アンテナを回転させて、受信信号の強さを時間の経過と共にレベル表示し、電波発信元の方向探知をする機能です。

※指向性アンテナのご使用をおすすめします。

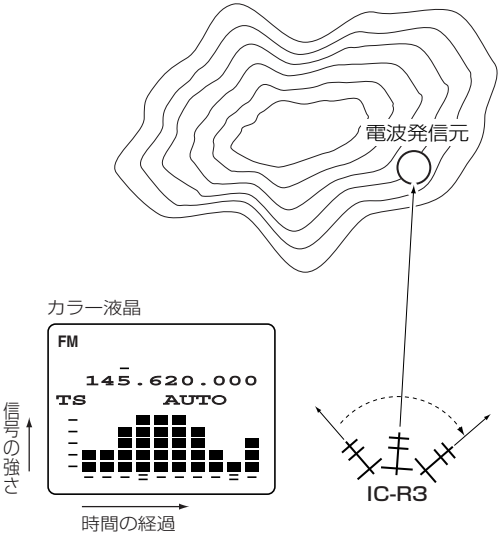
1.サーチ(方向探知)画面を選択する

①カラー液晶を表示させます。(☞P17参照)
②**[FUNC]**を押しながら**マルチファンクション**の**[▲]**または**[▼]**を短く押し、サーチ画面を選択します。(☞P19参照)
【注】 テレビ(TV)画面選択時は、表示画面の選択はできません。(☞P19参照)
③**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**を押し、希望のバンドにします。
④**[DIAL]**を回し、探知する周波数を設定します。



2.方向探知をする

⑤アンテナを回転(方向を替える)させることにより、受信信号の強さを時間の経過と共にレベルで表示します。



【ご参考】
信号が強くSメーターが振り切る場合、または周波数が1149.995MHz以下であればATT(アッテネーター)機能を使用するとより効果的です。

8-4 バンドスコープ機能の使いかた

バンドスコープとは、一定の周波数範囲内で信号が出ていないかをチェックするときに、目で見えるようにした機能です。

信号を探すだけでなく、受信しながらリアルタイムな状況を目で確認できる、便利な機能です。

※スイープ動作中は、信号を受信してもスピーカーから音は出ません。

1.バンドスコープ画面を選択する

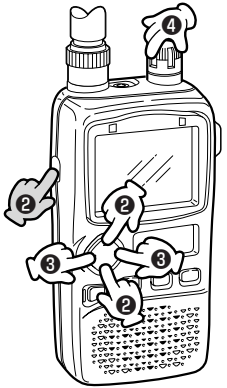
①カラー液晶を表示させます。(☞P17参照)

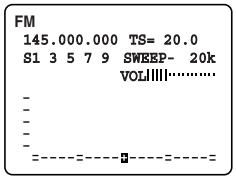
②**[FUNC]**を押しながら**マルチファンクション**の**[▲]**または**[▼]**を短く押し、バンドスコープ画面を選択します。

【注】 テレビ(TV)画面選択時は、表示画面の選択はできません。(☞P19参照)

③**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**を押し、希望のバンドにします。

④**[DIAL]**を回して周波数を設定します。



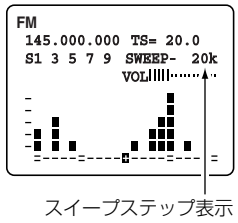


2.スイープステップを選択する

⑤**[FUNC]**を押しながら**[V/M]**を短く押すごとに、スイープステップ幅(5k→10k→20k→100k→500k)を選択することができます。

選択したスイープステップ幅で、1回だけスイープし、電波の状態(信号の有無)を左端からグラフで表示します。

※周波数をスイープするときの、ステップ幅は周波数を設定するときのチューニングステップに対応しています。チューニングステップは変更することができます。(☞P22参照)

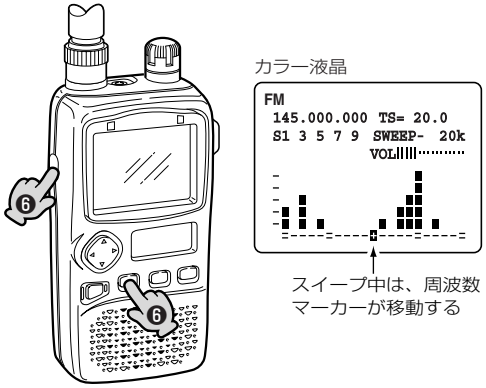


3.連続スイープするときは

⑥[FUNC]を押しながら[V/M]を長く押すと、連続スイープ動作を行います。

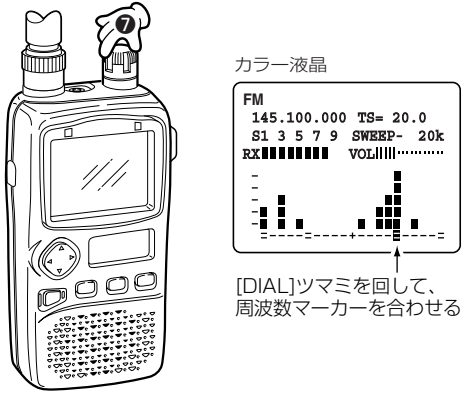
- 再度同じ操作を行うと、スイープ動作を解除します。

※[SQL]を短く押しても解除します。



4.見つけた信号を受信するときは

⑦バンドスコープ機能で見つけた信号を受信するときは、[DIAL]を回して、その波形に周波数マーカーを合わせます。



■センター周波数について

周波数を設定し、スイープ操作を行うと、設定した周波数がセンター周波数となります。

9 各種の交信を受信するために

9-1 トーンスケルチ通信を受信する

トーンスケルチについて

トーンスケルチは、受信する局のトーン周波数が一致したときのみ受信ができるので、個別/グループ局の呼び出し、待ち受けに使用されています。

アマチュア無線、簡易業務用無線、特定小電力無線などの通信に利用されています。

- 通信している周波数およびトーン周波数に自局の設定をあわせると、トーンスケルチ通信が受信できます。

ポケットビープについて

上記トーンスケルチ機能で受信したとき、ビープ音で知らせる便利な機能です。

呼び出しを受けると、呼び出し音“ピロピロピロ”が30秒間鳴り続けるとともに、ディスプレイのベルマークが点滅します。

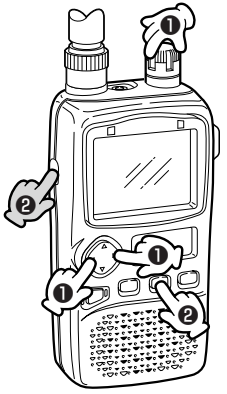
トーン運用モードおよびトーン周波数は、セットモードで設定します。

- バンド別に設定できます。

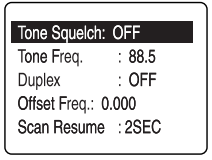
1.周波数を設定し、セットモードにする

①マルチファンクションの[◀]または[▶]および[DIAL]で、バンド/周波数を設定します。

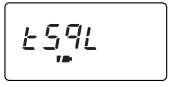
②[FUNC]を押しながら[MODE(SET)]を短く押し、セットモードにします。



カラー液晶



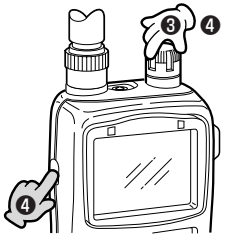
SUB液晶



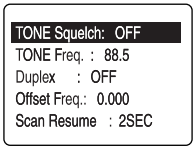
2.運用モードを設定する

③[DIAL]を回し、“Tone Squelch(tSqL)”項目にします。

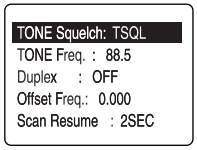
④[FUNC]を押しながら[DIAL]を回し、“TSQL(tSqL)”(トーンスケルチ)または“P BEEP(PbEEP)”(ポケットビープ)を選択します。



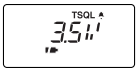
カラー液晶



“TONE Squelch”項目を選択する

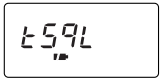


“TSQL”または“P BEEP”を選択する

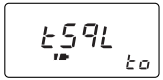


“P BEEP”選択時はSUB液晶に“TSQL”が点灯する

SUB液晶



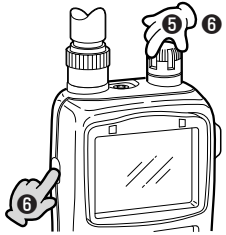
“tSqL”項目を選択する



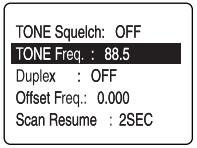
“tSqL”または“P bEEP”を選択する

3.トーン周波数を設定する

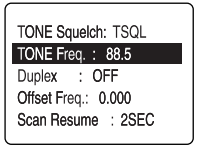
⑤[DIAL]を回し、“Tone Freq(tonE)”項目にします。
⑥[FUNC]を押しながら[DIAL]を回し、トーン周波数を選択します。
※トーン周波数一覧表(☞P47)



カラー液晶

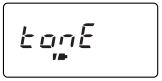


“TONE Freq.”項目を選択する

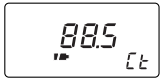


トーン周波数“88.5”を選択する

SUB液晶



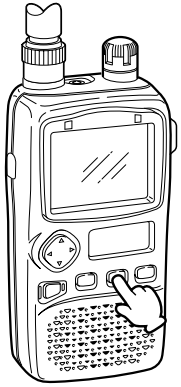
“tonE”項目を選択する



トーン周波数“88.5”を選択する

4.受信する

[MODE(SET)]を押すと、セットモードを解除して周波数表示に戻り、受信状態になります。

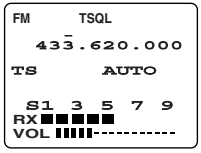


※交信中のトーン周波数がわからないときは、トーンスキャンを行い、トーン周波数が一致すると受信ができます。(☞P44)

■トーンスケルチ通信を受信すると

◎トーンスケルチが“ON”のとき

カラー液晶

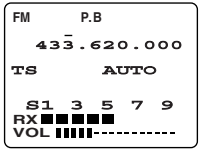


SUB液晶

受信するとスケルチが開き、通信している局の音声が聞こえます。

◎ポケットビープが“ON”のとき

カラー液晶



SUB液晶

受信するとベルが約30秒間鳴り続け、ベルマークが点灯します。
[SQL]キーを押すと、ベルが止まり、ベルマークが消灯します。

※隣接したトーン周波数を使用している局がいると、トーンスケルチが開くことがあります。

9-2 デュプレックス通信を受信する

デュプレックスとは

デュプレックス通信とは、送信と受信で違った2つの周波数を使用して交信する方式です。

- 430MHz/1200MHz帯のアマチュア無線用FMレピータシステムや各通信分野で広く利用されています。

本機にデュプレックスモードを設定すると、ワンタッチの切り替え操作で、送信/受信両方の周波数が受信できます。

デュプレックス通信を受信するときは、**オフセット周波数**の設定も必要です。

オフセット周波数とは

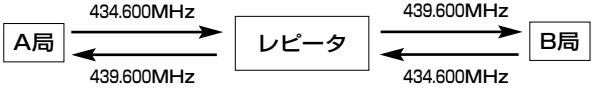
デュプレックス通信で、送信周波数と受信周波数の差をオフセット周波数といいます。

デュプレックスモードおよびオフセット周波数は、セットモードで設定します。

〔例〕430MHz帯のレピータ交信を受信するには

レピータとは、山や建物などの障害物で直接交信できない局の交信を可能にしたり、通信範囲(通信距離)を拡大させるための、自動無線中継装置のことです。

●レピータ交信の概略と周波数例



※レピータの周波数帯　送信：439.000～440.000MHz
受信：434.000～435.000MHz

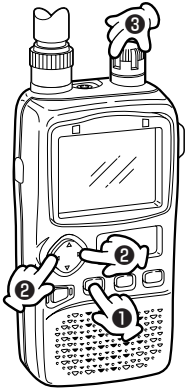
◎通常、アマチュア無線で運用されている430MHz帯のレピータ交信は、オフセット周波数を5.000MHzに設定しています。
レピータは、送信されてくる434.600MHzを受信すると、自動的に439.600MHzの周波数に変換して送信します。

◎本機で上記通信を受信するには、デュプレックス運用モードとオフセット周波数5.000MHzの設定が必要です。
(430Mバンドは、レピータ受信用に5.000のオフセット周波数を初期設定しています)
なお、デュプレックス運用モードは次のように設定します。
本機の表示(受信)周波数を439.600MHz(レピータの送信周波数)に設定したときは**"－DUPモード"**に、434.600MHz(レピータの受信周波数)に設定したときは**"＋DUPモード"**に設定してください。

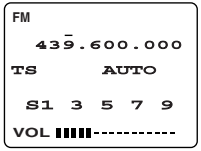
【ご注意】デュプレックスモードは、1Mバンドでは設定できません。

1.レピータ周波数を設定する

①**[V/M]**を短く押し、VFOモードにします。
②**マルチファンクション**の**[◀]**または**[▶]**を押し、430Mバンドにします。
③**[DIAL]**を回し、439.600MHzを設定します。



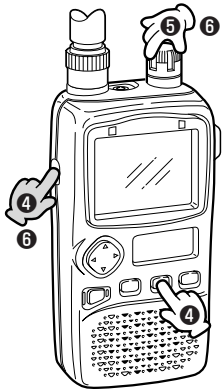
カラー液晶



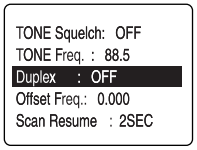
SUB液晶

3.運用モードを設定する

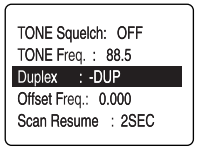
④[FUNC]を押しながら[MODE(SET)]を短く押し、セットモードにします。
⑤[DIAL]を回し、“Duplex(dUP)”項目にします。
⑥[FUNC]を押しながら[DIAL]を回し、“－DUP(－dUP)”を選択します。



カラー液晶



“Duplex”項目を選択する



“-DUP”を選択する

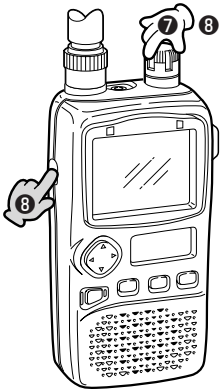
SUB液晶

“dUP”項目を選択する

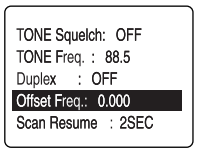
“-dUP”を選択する

4.オフセット周波数を設定する

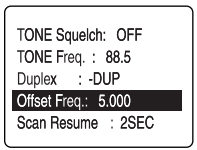
⑦[DIAL]を回し、“Offset Freq.(oFFSEt)”項目にします。
⑧[FUNC]を押しながら[DIAL]を回し、“5.000”MHzにします。
※430Mバンドのみ初期設定を“5.000”にしています。



カラー液晶

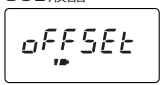


“Offset Freq.”項目を選択する

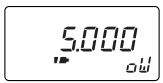


“5.000”に設定する

SUB液晶



“oFFSEt”項目を選択する



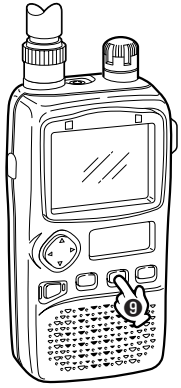
“5.000”に設定する

9-2 デュプレックス通信を受信する(つづき)

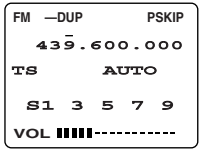
5.デュプレックス受信状態にする

⑨[MODE(SET)]を押し、セットモードを解除します。

- デュプレックスモードになり、439.600MHzの受信状態になります。



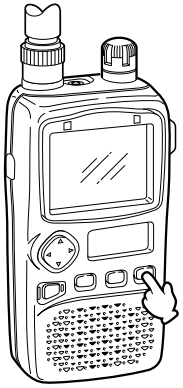
カラー液晶



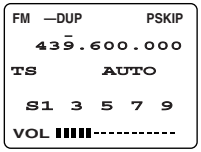
SUB液晶

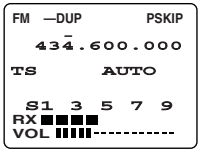
6.デュプレックス通信の周波数を受信するには

[SQL]を押します。
押している間、5.000MHz低い434.600MHzの周波数で受信します。
※[SQL]は“−DUP(−dUP)”モードのとき、オフセット周波数分低い周波数にし、“+DUP(dUP)”モードのときは高くして受信します。

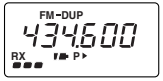


カラー液晶





SUB液晶



[SQL]を押すとオフセット分変化した周波数で受信できる

■デュプレックスを解除するときは
セットモードにして、“Duplex(dUP)”項目を“OFF(oFF)”にします。

1.キーロック機能について

不用意にDIALやキーに触れても、周波数や運用状態が変わらないようにするためにキーロック機能があります。

〔操作方法〕

[FUNC]を押しながら**[MODE]**を長く押します。

- SUB液晶のM-CH表示部に**“L”**が点灯します。
  以後、**マルチファンクション**の**[▲]**または**[▼]**、**[SQL]**以外のキー操作が無効になります。

[FUNC]を押しながら**[MODE]**を長く押すごとに、キーロック機能が**“ON/OFF”**します。

◆セットモードの「キーロック機能の設定」項目で、無効にするキーを選択できます。(☞P50)

2.ビープ音(操作音)について

キーを押したときに、その操作が有効か無効かを、下記のようにビープ音で知らせています。

◎ビープ音の種類

“ピッ” ：短く押すキー操作が正しいとき
“ピッ、ピー” ：長く押すキー操作が正しいとき
“ブッ” ：キー操作が無効のとき
“ピッ、ピピ、ピー”：メモリー書き込み操作が正しいとき

◆セットモードの「ビープ音(操作音)の設定」項目で、**“ON/OFF”**が設定できます。(☞P49)

3.SUB液晶のバックライト機能について

ディスプレイ表示を見やすくするために、キー操作をするたびにバックライト(照明)を点灯させています。

◆セットモードの「SUB液晶のバックライト設定」項目で、**“AUTO”**または**“ON/OFF”**が設定できます。(☞P49)

4.ダイヤルスピード機能について

[DIAL]をゆっくり回しているときは、設定したTS(周波数ステップ)で動作します。速く回したときに、周波数またはM-CHを、ダイヤルの速度以上にすばやく切り替える機能です。

◆セットモードの「ダイヤルスピード機能の設定」項目で、**“ON/OFF”**が設定できます。(☞P50)

5. オートパワーオフ機能について

なにも操作しない状態(受信もしない)が一定時間続くと、自動的に電源を**“OFF”**にする機能です。
電源の切り忘れによる電池の消耗を防ぎます。
◆セットモードの「オートパワーオフ機能の設定」項目で、自動的に電源を切る時間が設定できます。(☞P49)

6. パワーセーブ機能について

なにも操作しない状態(受信もしない)が一定時間続くと、自動的に機器を休止状態にし、電池の消耗を防ぐ機能です。
◆セットモードの「パワーセーブ機能の設定」項目で、**“AUTO”**または**“OFF”**の設定ができます。(☞P50)

7. 電池残量表示機能について

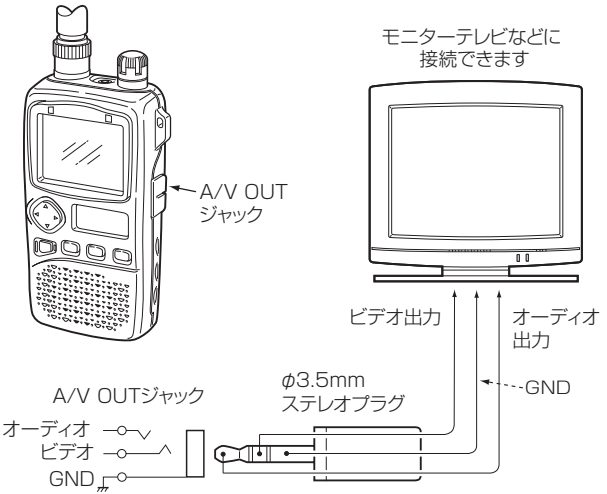
バッテリーパック、または電池の容量が残り少なくなると、電池マークが半分になります。さらに少なくなると、SUB液晶のみのときは表示が薄くなると使用できなくなります。また、カラー液晶を表示中(デュアル表示)は、すぐに使用できなくなります。**[POWER]**を少し長く(0.5秒以上)押して電源を切り、乾電池は新品と交換、ニカド電池またはバッテリーパック使用時は充電してください。

●SUB液晶表示のみのとき

電池マークが半分になり、
さらに少なくなると表示が
薄くなる

8. 映像 / 音声出力について

A(オーディオ)/V(ビデオ) OUT(出力)ジャックの装備により、映像出力をモニターテレビまたは家庭用テレビのビデオ入力端子、オーディオ出力を音声入力端子に接続することができます。
また、オーディオ出力をテープレコーダーなどの外部入力端子(AUX端子など)に接続し、受信内容を録音することもできます。



●オーディオ出力：出力インピーダンス 約1kΩ/300mV rms(TYP.)
●ビデオ出力　　：出力インピーダンス 約75Ω/1VP-P(TYP.)

リセット操作のしかた〔初期状態に戻すには〕

M-CHの内容やセットモードの設定をすべて初期状態に戻したいときは、オールリセットができます。
また、まちがった操作をしてわからなくなり、操作をはじめからやり直したいときなどは、パーシャルリセットがあります。

◆リセット操作後の内容

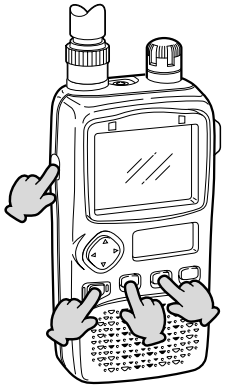
リセット項目	オール	パーシャル
運用モード	VFOモード	VFOモード
バンド/表示周波数	FM145.000	FM145.000
M-CHの内容	初期化する	保存
M-CHの番号	CH-00	変わらない
セットモードの内容	初期化する	初期化する

※リセット操作をすると、上記のように初期化しますので、リセット後に必要なデータはノートなどに控えておき、再設定してください。

- **オールリセットは、M-CHの内容を初期設定値に戻します。**
- **パーシャルリセットは、M-CHの内容を初期化しないで、保存します。**

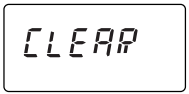
■オールリセットのしかた

いったん電源を切ります。
[FUNC]と[MODE]と[V/M]を押しながら、[POWER]を押して電源を入れます。
- **"CLEAR"**を表示し、電源が入ります。



SUB液晶

"CLEAR"を表示しなかったときはもう一度やり直してください。



リセット後の表示

■パーシャルリセットのしかた

いったん電源を切ります。
[FUNC]と[V/M]を押しながら、[POWER]を押して電源を入れます。
- **"CLEAR"**は表示しません。

リセット後の表示

SUB液晶

12 別売品一覧表

12-1 別売品一覧表

本機の性能を余すことなく活用し、さらに充実、グレードアップしていただくために、次のような別売品を用意しています。

BC-135	急速バッテリーチャージャー(BC-123付属)
BC-153	普及型バッテリーチャージャー(補修用)
BP-206	リチウムイオンバッテリーパック(補修用) 〔3.7V 2100mAh(Typ.)〕
CP-18	シガレットライターケーブル 〔DC-DCコンバーター内蔵〕
LC-151	キャリングケース
SP-13	ハンディ機用イヤホン
OPC-474	クローニングケーブル(本体間用)
OPC-478	クローニングケーブル(本体/コンピュター間用)

12-2 充電のしかた

■取り扱い上のご注意

- 充電は、必ず指定の充電器をお使いください。
- 充電は、できるだけ常温(20℃前後)で行ってください。
  周囲温度が0℃以下または35℃以上になる場所では、充電されないことがあります。
- バッテリーパックをお買い上げいただいたとき、または長時間使用しなかったときは、必ず充電してください。
- 充電器およびバッテリーパックの端子をショートや分解しないでください。感電のおそれがあります。
  また、火や水のなかに入れないでください。
  爆発のおそれがあります。
- ネックレスなどの金属類と一緒に持ち運んだり、放置しないでください。
  ショートすると危険です。
  電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
- バッテリーパックは消耗品ですから、充電を繰り返し行っていくと運用時間が短くなっていきます。
  運用時間が極端に短くなったときは寿命ですから、新しいバッテリーパックをご購入ください。
- 充電器を使用しないときは、電源からはずしておいてください。

A簡易充電のしかた

BC-153(付属品)またはCP-18(別売品)を使用して、簡易充電ができます。

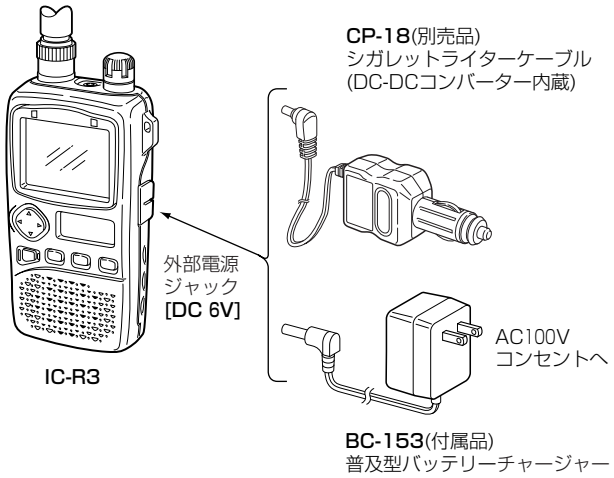
※充電しながら、受信することもできます。

①**BC-153**
電源プラグを家庭用電源のAC100Vコンセントに接続します。

②**CP-18**
車内のDC12V系シガレットライターソケットに接続します。

- **充電時間：約15時間**

【ご注意】
- AC100Vが著しく低下すると、充電できないことがあります。
- バッテリーパックを装着したまま外部電源を接続したときに、バッテリーパックより外部電源の出力電圧が低いと、バッテリーパックからの電源供給になりますので、外部電源の出力電圧にはご注意ください。
- BP-206以外の電池(NiCd/NiHHなど)の充電はできません。
- CP-18はDC-DCコンバーターを内蔵しているため常に微電流が流れています。
  バッテリーを保護するためにも使用しないときはシガレットライターソケットからはずしてください。
- 本機を使用しないときは、外部電源ジャックに外部電源(CP-18など)を接続しないでください。
- 当社指定のバッテリーチャージャー以外は絶対に使用しないでください。故障の原因となります。



- **BC-153(付属品)**
  入力電圧：AC100V、50/60Hz
  出力電圧：DC6V、1A
- **CP-18(別売品)**
  入力電圧：DC12~16V
  出力電圧：DC6V、1.5A

12 別売品一覧表

12-2 充電のしかた(つづき)

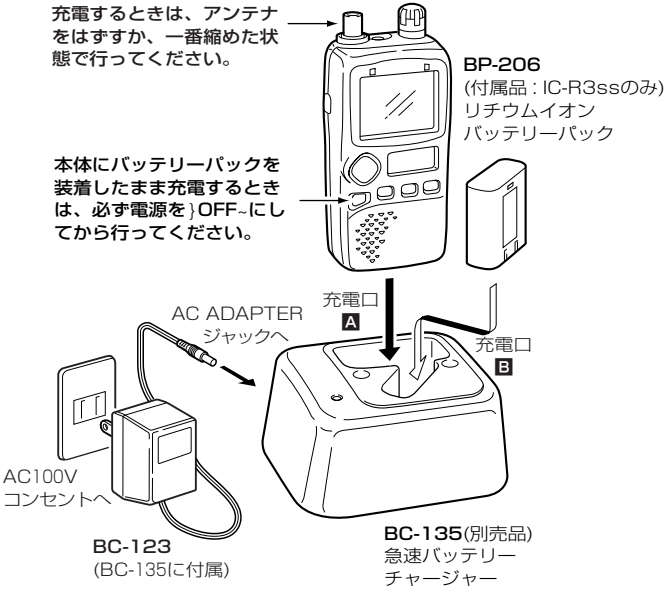
B急速充電のしかた

別売品のBC-135を使用して、急速充電ができます。

①本体にバッテリーパックを装着したまま充電するときは、充電口“A”にセットします。
②バッテリーパック単体で充電するときは、充電口“B”にセットします。

- **充電時間：約2.5時間**

【ご注意】
- 同時に2つの充電口で充電することはできません。
- AC100Vが著しく低下すると、充電できないことがあります。
- 充電端子は、綿棒や乾いた布でときどき清掃してください。
- 充電器を使用しないときは、電源からはずしておいてください。
- 当社指定のバッテリーチャージャー以外は絶対に使用しないでください。故障の原因となります。



■充電器の動作と表示

(1)充電開始時の電池電圧がローバッテリー検出電圧以上であれば、予備充電をしたあと急速充電を開始します。

(2)充電開始時の電池電圧がローバッテリー検出電圧以下であれば、微電流による充電を行い、ローバッテリー検出電圧以上にならないときは充電を停止します。
微電流充電時間を約14秒、またはローバッテリー検出電圧以上になれば上記(1)の動作を行います。

(3)急速充電中に電池電圧がローバッテリー検出電圧以下になれば、急速充電を停止します。

(4)満充電検出電圧または過充電防止タイマーの設定時間を超えると、充電を完了とみなし充電を停止します。

表示LED	表　示　内　容
オレンジ(点滅)	●電池電圧が2V以下のとき ●電池電圧が4.35V以上のとき ●電池端子の⊕と⊖端子がショートしているとき ●⊕端子がオープン(接触していない)のとき ●電池の電圧が上がらずタイマー切れになったとき
オレンジ(点灯)	●正常に充電中
グリーン(点灯)	●充電完了時
消　灯	●バッテリーパック未装着、断線などのとき

■BC-135のおもな定格

- **入力電圧**
  DC8～16V、1A
  (専用ACアダプター：BC-123使用)
- **充電電流**
  急速充電電流：1.2A ±20%
  予備充電電流：170mA ±20%
- **使用温度範囲**
  0～35℃
- **タイマー機能**
  フル充電タイマー：4時間　8分 ±10%
  予備充電タイマー：15分 ±10%
- **BC-123(BC-135に付属)**
  入力電圧：AC100V、50/60Hz
  出力電圧：DC12V、1A

13 故障かな？と思ったら

下表にあげた状態は、故障ではありません。修理に出す前にもう一度点検してください。
それでも異常があるときは、弊社各営業所のサービス係まで、その状態を具体的にご連絡ください。

状　　態	原　　因	処　　置	参照
●電源が入らない	◎電池またはバッテリーパックの接触不良 ◎電池の極性まちがい ◎電池またはバッテリーパックの消耗	◉電池またはバッテリーパックの端子を清掃する ◉極性を確認して、電池を入れなおす ◉電池を入れ替える(ニカド電池またはバッテリーパック時は充電する)	P7 P8 P7、8、68、69
●スピーカーから音が出ない	◎音量が小さくなっている ◎イヤホンを接続している	◉[▲]/[▼]を押し、音量を設定しなおす ◉イヤホンを外す	P16
●感度が悪く、強い局しか聞こえない	◎スケルチレベルをAUTO以外にしている ◎アッテネーターを“ON”にしている	◉[SQL]+[DIAL]でスケルチレベルを調整する ◉アッテネーターを“OFF”にする	P23 P24
●受信音が弱い、ひずむ、雑音が多いなど正常ではない	◎周波数が合っていない ◎電波型式が合っていない ◎電池の消耗 ◎建物や乗り物の中で使用している	◉最小のTSにして、周波数を設定してみる ◉電波型式を変えてみる ◉電池を入れ替える(ニカド電池またはバッテリーパック時は充電する) ◉窓際で聞く、または外部アンテナを使用する	P22 P21 P7、8、68、69 P5
●周波数の設定ができない	◎キーロックになっている ◎メモリーモードになっている	◉ロック機能を解除する ◉VFOモードにする	P64 P20
●異常な表示や動作になる	◎CPUが誤動作している ◎静電気などの外部要因	◉リセット操作をする ◉電池、ニカド電池、バッテリーパックを装着しなおすか、DC外部電源**(DC 6V)**に接続して電源を入れなおす	P66 P7、8
●スキャンが動作しない	◎プログラムチャンネルの“＊A”と“＊B”が同じ周波数になっている	◉違う周波数をメモリーする	P34
●SETモードにならない	◎カラー液晶でバンドスコープ画面表示している	◉バンドスコープ以外の画面に切り替える	P45
●カラー液晶の画面が選択できない	◎TV画面が選択されている	◉カラー液晶の表示を“OFF”にし、他のバンドを選択し、カラー液晶を“ON”にする	P17、21

故 障 の と き は

●保証書について

保証書は、販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

●修理を依頼されるとき

「故障かな？と思ったら(☞P71)」にしたがって、もう一度調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。
保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。
修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

●アフターサービスについてわからないときは

お買い上げの販売店、または弊社各営業所サービス係にお問い合わせください。

弊社各営業所のお問い合わせ先は、この取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

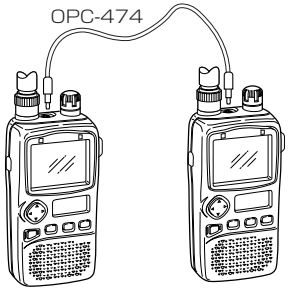
クローニングについて

■OPC-474クローンケーブルについて

クローンとは、1台の**IC-R3**に設定したメモリー内容やセットモードの設定内容を、他の**IC-R3**に送出し、同じ設定内容にする機能です。

■クローンのしかた

①下図のようにOPC-474で接続します。
②子機(クローン受信側)の電源を**“ON”**にします。
③親機(送出側)の操作
[MODE]と**マルチファンクション**の**[▲]**を押しながら電源を入れます。
SUB液晶に**“CLonE”**を表示します。
[SQL]を押します。
SUB液晶に**“oUt”**を表示し、設定内容を送出します。
以上でクローンが完了です。



◎クローンには上記本体間クローンの他に、パーソナルコンピューター(PC)でクローンする方法があります。
PCクローンとしてCS-R3(クローンソフト：英語版)がありますので、販売店におたずねください。

14 定 格

一般仕様

- **周 波 数 範 囲：** 0.495～252.895MHz　255.100～261.895MHz
  266.100～270.895MHz　275.100～379.895MHz
  382.100～411.895MHz　415.100～809.895MHz
  843.100～859.895MHz　899.100～941.895MHz
  960.100～2450.095MHz
- **電 波 型 式：** AM、FM、WFM、C3F(TV映像)
- **アンテナインピーダンス：** 50Ω 不平衡
- **アンテナ端子：** BNC型
- **受 信 方 式：** トリプルスーパーヘテロダイン
- **中 間 周 波 数：**
  AM、FM　1st;240.1MHz、2nd;26.05MHz、3rd;450kHz
  WFM　1st;240.1MHz、2nd;13.25MHz、3rd;450kHz
  C3F　1st;241.85MHz(30～799.995MHz、1321～2099.995MHz)
  238.35MHz(800～1320.995MHz、2100～2450MHz)
  2nd;58.75MHz

- **M-CH(メモリーチャンネル)：** 450ch(スキャンエッジ含む)
- **受 信 感 度：** AM(10dB S/N、TYP.)
  (スプリアスポイントは除く)

0.495～4.995MHz	3dBμ
5.000～29.995MHz	0dBμ
118.000～136.000MHz	−2dBμ
222.000～246.995MHz	0dBμ
247.000～329.995MHz	0dBμ

FM(12dB SINAD、TYP.)

1.625～4.995MHz	−10dBμ
5.000～29.995MHz	−12dBμ
30.000～469.995MHz	−12dBμ
470.000～799.995MHz	−7dBμ
800.000～1399.995MHz	−5dBμ
1400.000～1999.995MHz	−5dBμ
2000.000～2299.995MHz	0dBμ
2300.000～2450.995MHz	5dBμ

WFM(12dB SINAD、TYP.)

76.000～107.995MHz	0dBμ
175.000～221.995MHz	0dBμ
470.000～769.995MHz	5dBμ

- **スケルチ感度：** AM(TYP.)

0.495～4.995MHz	3dBμ
5.000～29.995MHz	0dBμ
118.000～136.000MHz	−2dBμ
222.000～246.995MHz	0dBμ
247.000～329.995MHz	0dBμ

FM(TYP.)

1.625～4.995MHz	−10dBμ
5.000～29.995MHz	−12dBμ
30.000～469.995MHz	−12dBμ
470.000～799.995MHz	−7dBμ
800.000～1399.995MHz	−5dBμ
1400.000～1999.995MHz	−5dBμ
2000.000～2299.995MHz	0dBμ
2300.000～2450.995MHz	5dBμ

WFM(TYP.)

76.000～107.995MHz	20dBμ
175.000～221.995MHz	20dBμ
470.000～769.995MHz	20dBμ

- **選 択 度：** AM/FM 12kHz以上/−6dB、30kHz以下/−50dB
  WFM　150kHz以上/−6dB
- **周波数安定度：** ±6PPM以内(−10℃～+50℃)
- **周波数分解能：** 5kHz、6.25kHz
- **電 源 電 圧：DC 3.6V～6.3V(4.5V標準)**
- **接 地 方 式：** マイナス接地
- **消 費 電 流：** (4.5V時)

受信時(バックライト OFF)	210mA(TYP.)
受信待ち受け時	140mA(TYP.)
パワーセーブ時 (受信時1：待ち受け16)	53mA(TYP.)
映像受信/カラー液晶動作時	730mA(TYP.)
TV音声受信時(WFM時)	210mA(TYP.)

- **消低周波出力：** 100mW(TYP.) (DC4.5V/8Ω負荷 10%歪率時)
- **低周波負荷インピーダンス：** 8Ω
- **外 形 寸 法：** 61(W)×120(H)×32.9(D)mm(突起物を除く)
- **重 量：** 約300g(本体、アンテナ、乾電池含む)
- **使 用 温 度 範 囲：** −10℃～+60℃

■テレビ放送〔音声〕周波数一覧表

単位：MHz

CH番号	周波数	CH番号	周波数	CH番号	周波数
VHF 1CH	95.75	UHF 22CH	529.75	UHF 43CH	655.75
2CH	101.75	23CH	535.75	44CH	661.75
3CH	107.75	24CH	541.75	45CH	667.75
4CH	175.75	25CH	547.75	46CH	673.75
5CH	181.75	26CH	553.75	47CH	679.75
6CH	187.75	27CH	559.75	48CH	685.75
7CH	193.75	28CH	565.75	49CH	691.75
8CH	197.75	29CH	571.75	50CH	697.75
9CH	203.75	30CH	577.75	51CH	703.75
10CH	209.75	31CH	583.75	52CH	709.75
11CH	215.75	32CH	589.75	53CH	715.75
12CH	221.75	33CH	595.75	54CH	721.75
UHF 13CH	475.75	34CH	601.75	55CH	727.75
14CH	481.75	35CH	607.75	56CH	733.75
15CH	487.75	36CH	613.75	57CH	739.75
16CH	493.75	37CH	619.75	58CH	745.75
17CH	499.75	38CH	625.75	59CH	751.75
18CH	505.75	39CH	631.75	60CH	757.75
19CH	511.75	40CH	637.75	61CH	763.75
20CH	517.75	41CH	643.75	62CH	769.75
21CH	523.75	42CH	649.75		

※上記周波数は、各バンドの周波数範囲にも含まれています。
MODE(電波型式)はWFM、TSは6MHzに自動設定しています。

■受信周波数範囲とMODE/TS一覧表 (AUTO設定時)

バンドの区別	周波数範囲(MHz)	MODE	TS(kHz)
1Mバンド	0.495～1.620	AM	5.0
5Mバンド	1.620～29.995	AM	5.0
50Mバンド	30.000～35.525	FM	10.0
	35.530～50.995	AM	5.0
	51.000～53.995	FM	20.0
	54.000～75.995	FM	5.0
FMバンド	76.000～89.985	WFM	100.0
	90.000～107.995	WFM	6.0(MHz)
AIRバンド	108.000～135.995	AM	25.0
VHFバンド	136.000～143.995	FM	10.0
	144.000～145.995	FM	20.0
	146.000～155.995	FM	10.0
	156.000～175.745	FM	25.0
	175.750～221.750	WFM	6.0(MHz)
	221.800～250.995	AM	100.0
	251.000～252.895	FM	12.5
300Mバンド	255.100～261.895	AM	100.0
	266.100～270.895	AM	100.0
	275.100～335.995	AM	100.0
	336.000～379.895	FM	12.5
UHFバンド	382.100～411.895	FM	12.5
	415.100～429.995	FM	12.5
	430.000～439.995	FM	20.0
	440.000～475.745	FM	12.5
	475.750～769.755	WFM	6.0(MHz)
800Mバンド	769.800～809.895	FM	12.5
	834.100～859.895	FM	12.5
	889.100～914.895	FM	12.5
1200Mバンド	960.100～1259.995	WFM	25.0
	1260.000～1299.995	FM	20.0
	1300.000～1399.995	FM	25.0
2400Mバンド	1400.000～2450.095	FM	25.0

操　作　の　早　見　表

◎キー操作欄の前にⓋ印があればVFOモード、Ⓜ印があればメモリーモードにして操作してください。

操　作　の　内　容	キ　ー　操　作	参照
VFO/メモリーの切り替え	[V/M]を短く押す	P20
バンドの切り替え	マルチファンクションの[◀]/[▶]を短く押す	P21
周波数の設定	Ⓥ [DIAL]または[FUNC]を押しながら[DIAL]を回す	P22
受信モード(電波型式)の切り替え	[MODE]を短く押す ※1Mバンドは操作できない	P21
TSの変更	[MODE/(TS)]を押しながら[DIAL]を回す	P22
音量の調整	マルチファンクションの[▲]/[▼]を押す(押し続けると連続動作)	P16
受信モニター	[SQL]を押す	P23
スケルチレベルの調整	[SQL]を押しながら[DIAL]を回す	P23
バンクの切り替え	Ⓜ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回す	P26
M-CHの呼び出し	Ⓜ [DIAL]を回す	P26
M-CHの選択状態	[V/M]を長く押す(ビープ音が“ピッ、ピー”と鳴りM-CH表示部点滅する)	P27
M-CHへの書き込み	[V/M]を長く押す(ビープ音が“ピッピー、ピピ”と鳴る)	P27
M-CHの内容をVFOへ移す	Ⓜ [V/M]を長く押す(ビープ音が“ピッピー、ピピ”と鳴り“VF”を表示後VFOへ転送する)	P28
メモリークリア 〔例.バンクA、CH-3をクリアする〕	①[V/M]を押してVFOモードにする ②[V/M]長く押す(M-CH選択状態にする) ③[FUNC]を押しながら[DIAL]で“バンクA”を選択 ④[DIAL]で“CH-3”にする ⑤[FUNC]を押しながら[V/M]長く押す	P31
キーロックの“ON/OFF”	[FUNC]を押しながら[MODE]を長く押す	P64
アッテネーターの“ON/OFF”	[FUNC]を押しながら[SQL(ATT)]を押す、[DIAL]を回す	P24
セットモードにする	[FUNC]を押しながら[MODE(SET)]を短く押す	P46
セットモードの項目選択	[DIAL]を回す	P46
セットモードの内容設定	[FUNC]を押しながら[DIAL]を回す(マルチファンクションの[◀]/[▶]でも可)	P46
セットモードの解除	[MODE(SET)]を短く押す	P46

操　作　の　早　見　表

操 作 の 内 容	キ ー 操 作	参照
VFOスキャンのスタート/ストップ	Ⓥ マルチファンクションの[◀]/[▶]を長く押すとスタート・短く押すとストップ	P36
バンド/フルスキャン、スキャン範囲の選択	Ⓥ マルチファンクションの[◀]/[▶]を押しながら[DIAL]で選択	P37
メモリースキャンのスタート/ストップ	Ⓜ マルチファンクションの[◀]/[▶]を長く押すとスタート・短く押すとストップ	P39
メモリーバンク/フルスキャンの選択	Ⓜ マルチファンクションの[◀]/[▶]を押しながら[DIAL]で選択	P39
プライオリティスキャンのスタート/ストップ	①セットモードにする　②[DIAL]で“Priority(PRIo)”項目を選択 ③[FUNC]を押しながら[DIAL]で“ON”選択　④[MODE]を短く押すとスタート ⑤[V/M]を短く押すとスキャン解除	P41
トーンスキャンのスタート/ストップ	[FUNC]を押しながらマルチファンクションの[◀]/[▶]を長く押すとスタート 短く押すとストップ	P44
プログラムCH(スキャンエッジCH)の呼び出し	①[V/M]を長く押す(M-CH選択状態にする) ②[FUNC]を押しながら[DIAL]でプログラムCH表示にする　③[DIAL]を回す	P34
カラー液晶の“ON/OFF”	[FUNC]を押しながらマルチファンクションの[▲]/[▼]を長く押す	P17
カラー液晶の画面切り替え	[FUNC]を押しながらマルチファンクションの[▲]/[▼]を短く押す	P19
受信できないTV-CHにスキップの指定	[FUNC]を押しながら[V/M(SKIP)]を長く押す	P53
スキップが指定されたTV-CHの呼び出し	[FUNC]を押しながら[DIAL]を回す	P53
オールリセットのしかた	①電源を切る　②[FUNC]＋[V/M]＋[MODE]を押しながら[POWER]を“ON”	P66
パーシャルリセットのしかた	①電源を切る　②[FUNC]＋[V/M]を押しながら[POWER]を“ON”	P66

高品質がテーマです。

A-5655Y-1J-④a
Printed in Japan
© 2000–2010 Icom Inc.

アイコム株式会社
547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32